

第1回大通公園・中島公園あり方検討会

議 事 録

日時：2023年11月2日（木） 9時20分～12時50分
会場：さっぽろテレビ塔 2階レンタルホール（はまなす・すずらん）

目 次

1	開会	3
2	資料確認	3
3	建設局長あいさつ	3
4	委員紹介	4
5	事務局紹介	5
6	あり方検討会について	5
7	座長の選出	5
8	議事 大通公園について	6
9	議事 中島公園について	35
10	閉会	55

1. 開会

○事務局（小松みどりの推進課長） 本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

定刻より少し早いですが皆様お揃いですし、準備も整ったということで、只今から、第1回大通公園・中島公園あり方検討会を開催いたします。

私は、検討会の事務局を担当しております建設局みどりの推進部みどりの推進課長の小松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、報道関係者の皆様におかれましては、会場内での撮影につきまして、議事に入る前までとさせていただきますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

それでは始めに、事務局から報告事項がございます。

本日は委員全員の方にご出席いただいておりますが、国土交通省都市局公園緑地・景観課 公園利用推進官の石川委員は、オンライン参加となっております。

委員の皆様につきましては後ほどご紹介させていただきます。

2. 資料確認

○事務局（小松みどりの推進課長） それでは、最初に配布資料の確認をさせていただきます。

1 点目、第1回大通公園・中島公園あり方検討会次第

2 点目、座席表

3 点目、大通公園・中島公園あり方検討会委員名簿

4 点目、大通公園・中島公園あり方検討会設置要綱

5 点目、資料1-1 大通公園のあり方の検討について

6 点目、資料1-2 誰もが利用しやすい大通公園に向けた実証実験

7 点目、資料2 中島公園魅力アッププランの検討について

その他、委員の皆様には議論の参考資料として「大通公園基礎資料」A3判ホチキス止め、「パンフレット2冊」、「中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想【概要版】」をお配りしております。ご確認のうえ、資料に不備がありましたらお知らせください。

3. 挨拶

○事務局（小松みどりの推進課長） 次に検討会の開会に当たりまして、札幌市建設局長荻田より、ご挨拶申し上げます。

○事務局（荻田建設局長） おはようございます。札幌市建設局長の荻田でございます。開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、ご多忙のところ朝早くからお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。委員の方々におかれましては、日頃より札幌市の都市公園行政にご理解いただきご協力を賜りますこと、お礼を申し上げます。

加えまして、各委員の皆様におかれましては、私共の委嘱にご快諾いただきましたことを、重ねて御礼申し上げます。

さて、本日も議論いただきます大通公園と中島公園につきましては、古くから札幌市を象徴する都心の公園として、明治の頃より市民の方々の「憩いの場」として利用いただいていたほか、冬の大通公園では雪まつり、夏の中島公園では夏祭りの会場として利用されているところでございます。

そうした中一方で、後ほど事務局から詳しくご説明させていただきますが、大通公園・中島公園ともに一部の施設では老朽化が進んでおり、公園周辺ではいろんな再開発、建物の更新事業の動きがみられる。あるいは、公園利用そのものに関して、市民の方々のニーズが多様化している状況でございます。そうした中で、札幌市といたしましては、両方の公園について改めて公園の考え方を整理する必要があると考えたところでございます。

こうしたことから、昨年札幌市は市政100年を迎えましたが、次の時代にふさわしい、大通公園と中島公園の姿を検討するために、「大通公園・中島公園あり方検討会」を設置し、2年間をかけて、その整理をさせていただきたいと考えているところでございます。

委員の皆様には、長時間にわたりご多忙のところ恐縮でございますが、ご負担をおかけすることとなりますが、公園のあり方が札幌の都心のみどりを推進するうえで、非常に重要なものになりますので、引き続きのご協力を賜りたいと考えているところでございます。以上簡単ではございますが、開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

4. 委員紹介

○事務局（小松みどりの推進課長） 続きまして、第1回目の検討会ですので、委員の皆様をご紹介いたします。それでは、座席順に愛甲委員から反時計回りでご紹介いたします、その場でご一礼いただければと思います。

北海道大学大学院農学研究院 准教授 愛甲（あいこう）委員です。

北海商科大学観光産業学科 教授 池ノ上（いけのうえ）委員です。

エコモット株式会社 代表取締役 入澤（いりさわ）委員です。

北海道大学大学院工学研究院 准教授 小篠（おぎさ）委員です。

札幌市立大学デザイン学部 教授 椎野（しいの）委員です。

北海道大学大学院工学研究院 教授 高野（たかの）委員です。

国土交通省 北海道開発局 事業振興部 都市住宅課 都市事業管理官 玉田（たまだ）委員です。

札幌市立大学デザイン学部 准教授 森（もり）委員です。

北海道文教大学人間科学部こども発達学科 教授 吉岡（よしおか）委員です。

有限会社緑化計画 代表取締役 笠（りゅう）委員です。

最後に本日はオンラインにてご参加いただいております

国土交通省都市局公園緑地・景観課 公園利用推進官 石川（いしかわ）委員です。

5. 事務局紹介

○事務局（小松みどりの推進課長） 続きまして、事務局ならびに関係部局の職員を紹介いたします。

事務局の高橋みどりの推進部長です。

みどりの推進課長の小松です。

次に関係部局としまして、

鈴木みどりの管理担当部長です。

与那覇みどりの管理課長です。

濱岡みどりの活用担当課長です。

このほか、みどりの推進部の関係職員が出席をしております。

6. あり方検討会について

○事務局（小松みどりの推進課長） 続きまして、次第の5「大通公園・中島公園あり方検討」について、簡単ではございますが、お手元の「大通公園・中島公園あり方検討会」設置要綱をご覧いただき、要点をかいつまんで説明させていただきたいと思っております。

まずは、第2条にあります、本検討会の趣旨についてですが、本検討会では「大通公園」、「中島公園」の魅力や機能の向上について検討するとともに、意見聴取、意見交換を行うことを目的としています。

次に、第3条、組織についてです。検討会の委員は専門知識を有する者、その他市長が適当と認めるもののうちから市長が委嘱することとしています。また、検討会にはオブザーバーを置くことができることとしており、委員がやむを得ない事情により検討会に出席できない場合は代理の者を出席させることができます。

次に、第4条についてですが、委員の任期は令和7年3月31日までとしております。

次に第5条についてですが、本検討会では座長1名を委員の互選により定めるものとしております。座長につきましては、後ほど選出させていただきます。

最後に、第8条及び第9条についてですが、本検討会の庶務はみどりの推進課が行うこととし、この要綱に定めるものの他、検討会の運営に関し必要な事項は建設局長が定めることとしています。

簡単ではございますが、検討会の説明については以上となります。

7. 座長の選出

○事務局（小松みどりの推進課長） 続きまして次第6 座長の選出でございます。

選出につきましては、「大通公園・中島公園あり方検討会設置要綱」第5条第1項により、委員の互選によることとされております。

なお、皆様から推薦等のご意見が特段無い場合は、事務局からご提案させていただきたいと思っております。

座長の選出につきましては、推薦等のご意見はございますでしょうか。

(「なし」と発言するものあり)

特段のご意見がないようですので、事務局から提案させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言するものあり)

それでは、事務局からの案といたしまして、委員の皆様にご了解いただけましたら、座長は愛甲委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言するものあり)

ご了解いただきましたので、座長は愛甲委員にお願いしたいと思います。

それでは、座長席の準備を行いますので少々お待ちください。

○事務局(小松みどりの推進課長) それでは、この度、座長に選任されました愛甲座長よりひとことご挨拶をいただければと思います。

○愛甲座長 改めまして、北海道大学の愛甲です。

座長に選任していただきましたので、精一杯努めて参りたいと思います。

6回で2年にわたる検討ですので、回数も多くお話しする内容も非常に多岐にわたり、二つの公園同時に話をしていきますので、できるだけ円滑に議事を進めて、皆さんに大通と中島の価値や魅力を広げられるようないろいろな話を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局(小松みどりの推進課長) ありがとうございます。それでは、ここから議事に入りますが、議事進行につきましては、愛甲座長にお願いしたいと思います。なお、建設局長荻田は、この後、公務の都合によりここで退出させていただきます。

(~~~建設局長退出~~~)

8. 大通公園についての審議

○愛甲座長 それでは、議事に入って参りたいと思います。一つ目の議事は「大通公園の魅力と機能の向上」についてです。

まずこの議事について、資料の説明を事務局よりお願いいたします。

○事務局(乾係長) みどりの推進課の乾です。

それでは大通公園のあり方の検討について、ご説明いたします。

資料は1-1としてA3横版5ページの「大通公園のあり方の検討について」と、

資料1-2としてA4縦版1ページ「誰もが利用しやすい大通公園に向けた実証実験」となります。

資料1-1から説明させていただきます。

まず、大通公園の概要と課題についてご説明します。

はじめに概要ですが、資料左上、本公園は大通西1丁目から西12丁目に位置した、東西に長い形状の公園で、面積はおよそ7.8ha、種別は、風致や歴史など、その目的に即して配置する「特殊公園」に位置付けています。

次に変遷は、1871年に開拓使により道路として整備されたことから始まり、1911年には西3丁目から西7丁目において公園として整備され、1980年に都市公園法による公園として告示されています。その後、1989年から6年かけて再整備工事を行い、現在の姿となりました。

右側の課題をご覧ください。大通公園は年間を通して多くの市民や観光客が訪れる、札幌を代表する公園のひとつであり、都心の魅力向上に向け、周辺のまちとの連携や老朽化した施設の更新への対応が課題となっています。また、昨今では、スケートボードや喫煙、自転車、イベントの開催等、様々なカタチで公園が利用されており、多くの方にご利用いただくには、時代の変化に合わせた利用を考える必要があります。

右側、公園周辺のまちづくりについては、2030年度に予定されている北海道新幹線札幌開業をはじめ、大通公園周辺でも土地利用の更新が活発化しています。また、公園施策を取り巻く環境についても、既存ストックの効果を一層高めるため、民間との連携加速や地域ニーズに対応した使い方など、より柔軟な発想で運用していくことが求められています。

こうした現状を踏まえ、今後大通公園に求められるであろう役割や活用例を、資料中段部に4項目でまとめています。

1つ目は、歴史性・位置づけ、2つ目は、従来からの役割としており、これまでの大通公園の位置付けや都心の象徴的な公園として担ってきた役割を記載しています。

3つ目は、公園に求められる社会的要請です。環境、ユニバーサル、ウォークブル、防災・安全、デジタルといったキーワードは国の指針などでも示されており、今後の公園のあり方を検討するうえで必要な視点だと考えております。

4つ目では、社会的な動きなどを踏まえ、大通公園の新たな可能性として想定される活用例（イメージ）を他都市事例とともにまとめています。

切り口は左上から右に向かって、「多様なライフスタイルを支える場」、「コミュニティ活動を創出する場」、「様々なニーズを受け止める場」、「まちづくりとの連携」として整理しており、今後の大通公園の新たな可能性としての議論が必要だと考えています。

これらの視点を踏まえ、次に、公園へのニーズの具体化に向けた取組イメージを3つ示しています。

1つ目は、『大通公園の魅力と機能の向上』をテーマとし、老朽化への対応や民間事業者との連携手法に関する取組、

2つ目は、『「いこい」と「にぎわい」の両立』をテーマとし、日常利用とイベント利用の使い分け、大通公園各丁目ごとの特徴を活かした利活用などの取組、

3つ目は、『沿道と連携したみどりの軸の強化』をテーマとし、公園～道路～民間敷地といった横軸での連携や、地上地下の縦軸での連携を踏まえ、公園周辺一帯のにぎわいの創出等の取組を検討することとしています。

また、この度の大通公園の検討に先立ち、札幌市の都心のみどりづくりを推進するために先日策定した「札幌市都心のみどりづくり方針」では、現在の公園利用の特性を踏まえ、利活用のイメージをお示ししております。左側から、緑色枠で囲われた西11丁目から西

12丁目、及び札幌市資料館を「歴史と文化の薫る空間」、水色枠で囲われた西8丁目から西10丁目を「子どもが遊び健やかに過ごせる空間」、オレンジ色枠で囲われた西5丁目から西8丁目を「賑やかな都心のオアシス」、ピンク色枠で囲われた西1丁目から西4丁目を「戦略的活用エリア」としています。

検討会のスケジュールについてですが、今年度3回、来年度3回、ご議論いただいたのち、令和6年度中に大通公園のあり方を、とりまとめたいと考えています。

各検討会のテーマについては、本日第1回～第3回までは、先ほどご説明しました大通公園のニーズの具体化に向けた考え方にに基づきご議論いただく予定です。その後の第4回では、「（仮称）誰もが利用しやすい公園づくり」として、昨今の公園の抱える課題等をテーマにした検討会を行いたいと考えています。この第4回検討会に向けては、より具体的な議論を行うため、会議に先立ち、大通公園での実証実験を予定しています。

ここで、これから行う予定の実証実験をご説明しますので、資料1-2をご覧ください。

実証実験につきましては、今年度、2つの取組を予定しています。

1つ目は、遊びの機能に関する実証実験です。

近年、大通公園周辺に保育施設が増加していることなどから、大通公園では子どもたちが遊ぶ姿が多く見られます。また、市民などに今後の大通公園に期待することを聞いた際には、子どもたちの遊べる空間が増えて欲しいという声も寄せられていました。

こうした背景を踏まえ、遊具やベンチなどのメーカーである株式会社コトブキ様の協力を得ながら、振動や光など施設自体が動きを持つ新たな遊具を実験的に設置し、遊びの機能を充実させることができるのか検証を行いたいと考えています。

実施は、大通公園の西10丁目東側芝生部分に新たな遊具を設置し、子どもから大人までが楽しめる空間づくりができるのか実験を行います。実施時期は今年の11月中旬ごろから12月はじめまでの約3週間を予定しています。

2つ目は、喫煙環境に関する実証実験です。

大通公園ではお昼休みの時間などを中心に、喫煙者が公園の一角で喫煙している姿が見受けられるため、公園内に新たな喫煙所を試行的に設置することで、望まない受動喫煙対策への取組推進や、たばこを吸う方と吸わない方の双方にとって公園の利用環境が向上するか検証を行います。

実施にあたっては、日本たばこ産業株式会社様の協力を得ながら、大通公園西5丁目の北側にパネル型の喫煙所および灰皿を新たに設置し、誰もが公園を利用しやすい空間づくりができるのか実験を行います。実施時期は今年の12月上旬頃から、令和6年度末までを予定しています。

実証実験に関する説明は以上となります。資料1-1にお戻りください。

資料右下のスケジュールです。ただいまご説明した取組などを踏まえて、第4回検討会をご議論いただく予定です。第5回からは、第1回～第4回の議論結果を踏まえ、（仮称）大通公園のあり方のとりまとめの素案の提示、第6回で案の提示し、それぞれご議論いただくことを想定しております。

検討会のスケジュールに関する説明は以上となります。

資料をおめくりください。

このページ以降、5頁目までは、今回ご議論いただく「大通公園の魅力と機能の向上」について、4つの検討テーマをそれぞれまとめております。

4つの検討テーマは、先ほど1枚目でご説明しました、資料左側「考え方1 大通公園の魅力と機能の向上」にぶら下がる4つの「取組イメージ」となっております。

1つ目が「従来からの役割の継承・強化と新たな可能性の検討」、

2つ目が「老朽化に対応した大通公園の再整備の検討」

3つ目が「大通公園の回遊性の向上に向けた議論と検討」

4つ目が「民間事業者と連携した公園整備手法の検討」です。

このページ以降では、4つのテーマごとに現状と課題、考察と、考察に類似する他都市事例をまとめております。

委員の皆様には、課題や考察に関してご意見やアドバイス等をいただければと考えております。

それでは、最初に「従来からの役割の継承・強化と新たな可能性の検討」についてご説明します。

紙面上段に、現状①②として大通公園が1989年に再整備した際に設定したゾーニングや、現在の公園周辺の沿道施設の機能を示しております。

沿道施設については、東側に商業施設が分布しており、それ以外はオフィスなどの業務施設が多く分布しています。また、西側については行政施設や文化施設、共同住宅が散見されるほか、一部のエリアでは沿道建物の機能に変化が見られます。

また、紙面中段には、現状③として、公園利用者・利用時間・利用目的の変化についてお示ししています。利用時間や目的など、昭和63年調査と令和4年調査で異なる結果となっているものもあれば、豊かな緑を魅力と感じている方は変わらず多くいることがわかります。

保育施設がよく利用するエリアとしては公園西側が多く、スケートボードについては利用を全面禁止にしているものの、東側での利用が多く見られます。

こうした現状を踏まえ、資料下の青枠内に、課題を2つ挙げております。

1つ目は、再整備当時と比べ、沿道施設の機能に変化があり、公園のゾーニングと沿道施設の機能の一体性に向けた検討が必要であるということです。

2つ目は、利用者および利用目的の変化に伴い、利用ニーズの変化が見られるということです。

2つの課題を踏まえ、紙面左下の緑色枠内に、考察として、2点整理してございます。

1つ目は、大通公園は再整備当初から緑の豊かさが魅力としてあげられており、現在も重要視されていること、また、都心における貴重な散歩・休息地としての機能を果たしていること。

2つ目は、再整備当時の公園のゾーニングの考え方と比べて、沿道の土地利用の変化により、丁目毎にニーズが異なっており、利用ニーズに合わせた新たな公園の役割を考える必要があること、としております。

紙面右下には考察を受けて、他都市での参考事例をご紹介します。

ここでは、かつて造幣局だった場所を住民のニーズにより、憩いの場や住民の暮らしを面的に支える防災公園を整備した東京都豊島区のイケ・サンパークを掲載しています。

資料をおめくりください。

次に、「老朽化に対応した大通公園の検討」についてです。

現状①②では、再整備してからおよそ30年が経過し、公園施設の老朽化が進んでいることや、公園施設への市民ニーズをお示ししています。

図上には、丁目毎に施設の老朽化状況やそれに伴う維持管理費の推移、令和4年度に大通公園について市民などから幅広く意見をいただいた結果をお示ししています。

現状③では、植栽されている樹木が再整備した当時よりも生長し繁茂していることをお示ししております。

こうした3つの現状を踏まえ、課題を4つ挙げています。

1つ目は、増加する老朽化施設への対応、

2つ目は、市民ニーズとして実利用に結びついた改善や都心にふさわしい質の高い公園の設え、

3つ目は、樹木の繁茂に伴い、地上部で公園内外の見通しが阻害されていることや、沿道との一体性の喪失、

4つ目は、維持管理費等の確保です。

4つの課題を踏まえ、考察として2点整理しています。

1つ目は、老朽化による課題の他、利活用のニーズの違いも生じていると考えられ、丁目ごとに最適な施設更新のあり方に係る検討が必要であること、

2つ目は、厳しい財政状況を背景に維持管理費の確保に課題があり、再整備の検討が求められることです。

参考事例として、官民連携手法の導入などにより公園施設の整備や、適切な維持管理をおこなっている豊島区の事例を掲載しております。

資料をおめくりください。

次に、大通公園の回遊性の向上に向けた議論と検討です。

現状①では、大通公園とその周辺における緑化空間や公開空地についてお示ししています。

現状②③では、地下空間や沿道建物への接続や公園内のバリアフリー状況についてお示ししています。

現状④では、公園の南北方向の出入口と横断歩道の位置関係についてお示ししています。

上段の平面図をご覧ください。公園出入口をオレンジ色でマーキングしています。西1丁目～西12丁目までの公園出入口を俯瞰しますと、東西方向の動線上では公園出入口と

横断歩道が連続しており公園への進入が容易なのをご覧いただけるとと思います。一方、南北方向の動線上では、公園出入口と横断歩道が重なる部分が少ない状況をお示ししています。

この他現状⑤では、公園周辺の自動車交通量の状況をお示ししています。

こうした5つの現状を踏まえ、課題を2つ挙げています。

1つ目は、大通公園の出入口の多くは、東西方向に配置されており、沿道からの自然なにじみ出しや回遊性の向上が期待できない状況となっていること、

2つ目は、バリアフリー化は概ね対応済みだが、より一層のユニバーサルデザイン化が必要であることとしています。

2つの課題を踏まえまして、考察として4点整理しています。

1つ目は、周辺公開空地の増加は、回遊性の向上およびみどりのネットワークの形成に寄与していること、

2つ目は、地上と地下、道路と建物の接続が充実し、大通公園は都心部の回遊拠点のハブとして考えられること、

3つ目は、公園への動線として、現在の東西方向のほか、南北方向のネットワークの形成を考える必要があること、

4つ目は、公園内の移動先となる施設やサインについて、ユニバーサルデザイン化への対応が必要であること、としています。

参考事例として、回遊性向上のため、再整備に合わせて沿道からのアプローチを考慮して入口を配置した名古屋市の事例を掲載しております。

資料をおめくりください。

最後に、「民間事業者と連携した公園整備手法の検討」についてです。

現状①では、これまで大通公園で実施してきた官民連携による施設整備や維持管理についてお示ししています。

大通公園では民間資本を活用した整備の他、花壇のボランティアによる維持管理等を行ってきましたが、近年、参加している団体が減少している状況にあります。また、民間企業などには公園ボランティアを効果的に推進する公園ボランティア登録制度にご登録いただき、清掃活動などを実施いただいています。

現状②では、公園周辺の建物年数と周辺地区での再開発や今後のまちづくりに向けて検討されているエリアなどを図上でお示ししています。

このほか、現状③では、民間主導で公園施設の整備や管理を行う Park-PFI など、都市公園の民間活力導入の手法が多様化していることを記載しています。

こうした3つの現状を踏まえ、課題を2つ挙げています。

1つ目は、公園周辺のまちづくりなどと連携した官民連携による公園整備の検討、

2つ目は、民間協力によって管理されてきた花壇の数が減っており、維持管理手法のあり方についての検討を挙げています。

2つの課題を踏まえ、考察として3点整理しています。

1つ目は、これまでも多くの方から協力を得てきた大通公園については、今後も整備・運営の両面から民間事業者と様々な手法で連携していく必要があること、

2つ目は、これまで培ってきたボランティアや民間企業が参画しながらの公園維持管理については、レガシーとして受け継いでいくこと、

3つ目は、持続的な活動の継承や、より質の高い管理が必要となった場合には、官民連携のさらなる発展について検討が必要であること、としています。

参考事例として、民間事業者との連携により都市公園を効果的に利活用している他都市の事例を掲載しております。

以上で、大通公園の魅力と機能の向上についての説明を終わります。

○愛甲座長 ありがとうございます。

それでは、これから議論に入っていきたいと思います。非常に多岐にわたりますが、本日は冒頭にも説明がありましたように、まずは大通公園の魅力と機能の向上について今日は話をする事になっています。

その中で4つの視点が示されていますので、まずはそれぞれに1つずつご意見をうかがっていききたいと思います。ただ、とはいっても、いろいろとまたがる論点はあると思います。その辺はあまり気にされずに、ご発言いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

まずは、1つ目のテーマの、資料 1-1 の2ページ目にあります「従来からの役割の継承・強化と新たな可能性の検討」について、ご質問やコメントでもかまいませんのでご発言をいただければと思います。どなたからでも結構ですのでお願いいたします。

○森委員 簡単なことから質問させていただきたいと思います。

現状③の平日ピーク時間の推移ということで、令和4年と昭和63年の使い方の時間に変化があるというお話を受けたんですけれども、これらはやはり雪のない時期の数値かなと思うのですが、今回の議論、役割の継承、強化、新たな可能性というのは、やはり雪の時ではなく、今ぐらいの、実証実験も12月の中頃までされるということでしたが、そういったことをメインに議論をするということですのでよろしいでしょうか。

○事務局（小松みどりの推進課長） ご質問ありがとうございます。特に季節を限定してということではございません。通年、夏も冬も利用されてはおりますので、年間通じての議論をしていただければと思っております。

○森委員 この表の数値はいつの時期のデータなのでしょうか。

○事務局（乾係長） 資料のデータにつきましては、10月秋ごろのデータとしてとっております。

○森委員 ありがとうございます。

○愛甲座長 他にいかがでしょう。椎野先生。

○椎野委員 資料のご説明ありがとうございます。

私は3年ほど前に、大通公園周辺の保育施設の公園利用の調査をやらせていただいたことがございまして、資料2ページ目の右下の保育施設がよく利用するエリアというところ

で、私が調べた結果でも同じような傾向が出ておまして、これはこの当時からののだと思います。

一方で、保育施設は西側の方に設置されている場合が多いのですが、東側の西 1 丁目とか 2 丁目のあたりにもいくつかございまして、そちらの方のお話を伺うと、もうちょっとテレビ塔とか 1 丁目、2 丁目のあたりに、小規模でいいので子どもの遊ぶ場所があると助かりますというお話を伺いました。

ですから、施設が多くて利用しやすいから西側に集中というのはもちろんそうだし、その機能を強化していくというのも合理性があるのですが、一方で利用しにくいから利用が少ないと読むこともできると思います。1 区画でもいいので、子ども向けの遊ぶ場所といますか、そういうものがあると、もう少し東側も利便性が高まるのかなと思いました。

それと資料 1-2 の、遊びの機能に関する実証実験ですね。今年の 11 月中旬なので、来週、再来週ぐらいに始めるということですが、大変興味深い実験だと思いますので、ぜひ結果をお知らせいただければと思います。

一方で、見た感じ年齢としては 4、5 歳くらいのお子さんが利用するような想定かなと思ったのですが、結構大通周辺の保育施設は、3 歳未満のお子さんを預かる施設が多くて、そのくらいの年齢のお子さんだと遊具で遊ぶというよりは、芝生でかけっこしたり、芝生の築山のところでごろごろ寝転がるとか、そのくらいで十分楽しいといえますか、外に出て体を動かすのがすごく楽しいという利用のニーズがあるかなと思いますので、今から修正が効くかわかりませんが、それくらいの年齢のお子さんでも遊べるような想定のもがあるとより実験の効果が高まるかなと思いました。

あとは、利用の時間帯としては、10 時から 11 時半くらい、要するに午前中の 10 時くらいに外に出て活動するというのが割と一般的なもので、イベントなどうまくタイムズーニングといえますか、時間を分けられるようなことがあれば、市民、地域の人向けの利用時間帯としては、午前中は市民を中心にして、観光客向けのイベントはできれば午後から開始していくというような形にさせていただけると、時間で利用者が分けられるのでいいのかなと思いました。そのあたり少しご検討いただけるとよろしいかなと思いました。

あと保育所って郊外だと建物があって園庭があって、割とお子さんにとって充実した保育環境があるんですけど、やっぱりこの大通の周辺って当然地価が高いこともありますし、雑居ビルのワンフロアを借りて、狭い中でたくさんのお子さんを預かる託児所のようなところも少なからずあるなど実際に行っていて感じておまして、ですから外で活動するというのは、非常に大事なことだと思っています。

ぜひ大通公園では地域、特にお子さんを連れた利用みたいなものは、より充実していけるような方向性で進めていただきたいという希望があります。以上です。

○愛甲座長 ありがとうございます。何か、コメントとかありますか。

吉岡先生じゃあ先に、関係ありそうなので。

○吉岡委員 今、椎野委員から子どものことについてご意見ございましたので、私も続いて子どもについてご意見したいと思います。

今おっしゃったように、近隣の保育所の利用がかなりございますので、ここはぜひ確保していただきたいなと私も思います。

あと資料館の隣の西12丁目あたりは、かなりガーデニングといいましょうか、お花ですとかきれいに整備してありますが、どの程度市民の方がここで憩われているのか、少し活用の数というんでしょうかね、数字的にはそれほどないのかなというイメージを持っているんですけども、もしここも少し改めて考え直すということでしたら、もう少しこの保育所ですとか、あと近隣のマンションにお住いの小さなお子さんを育てているご家族もご利用されていると思いますので、そういった方への市民の利用ということも意識しながら再整備していく必要があるかと思えます。

今、椎野委員からのご指摘ありましたけれども、実証実験のこの図なんですけれども、私もこれを見て、少し年齢が高い子ども向けかなと思ったのと、あと札幌は南区の藤野のむくどり公園などで、バリアフリーの公園づくりということで、もう25年くらい前ですかね、整備してありますが、大通公園を整備するときも子ども向けだけではないんですけども、徹底したバリアフリーなんだ、というところを市民にも外からいらっしゃる観光客の方にもわかりやすい形でアピールできる、そんな街になって欲しいという思いもありますので、一言付け加えさせていただきます。以上です。

○愛甲座長 はい、ありがとうございます。

ちょっと笠さんの発言の前に、椎野先生に少し質問したい点があって、さっき言われてた時間の話って、日常利用とイベント利用の時間を分けるという話がありますけども、これは、実証実験に関する話ですか、それとも大通公園全般の話ですか。

○椎野委員 ごめんなさい、実証実験の話ではなくて、イベント開催との、要は観光客向けの、主に観光客をターゲットにした利用と、市民の利用というのがうまく両立できればいいなと思ってます。

特に保育所の話だと雪まつりの期間はたくさん人が来るので、ほんとは雪遊びを外でやりたいんだけど、なかなかできないというようなお話があって、コロナ禍で、観光利用というか、雪まつりが開催されなかったのもその時はすごく外で遊ぶことができたというお話を伺ってます。

ですからコロナの五類移行で観光のニーズが戻ってきているところではあるんですが、やっぱり市民ニーズというのも一方で大事にする必要があるなと思っていて、ですから実証実験のことでなく、普段のイベント等の開催についても市民利用に少し配慮した形で実施していただけるといいのかなという意見でした。

○愛甲座長 わかりました。ありがとうございます。二人とも子どもの遊ぶ環境を充実させて欲しいというお話だったと思います。

1点だけちょっと質問していいですか。

実証実験って時間的には何時から何時までやるとかって決まっているのですか。

電気を使ったり動いたりするので、多分これ時間を制限しますよね。

○事務局（乾係長） 今まさに利用できる具体的な時間自体は調整中なんですけれども、朝から夕方までの間で利用できる、ということを今調整しているところです。

○愛甲座長 ありがとうございます。実証実験なのでできれば、夕方とかも平日はやっていただくと、それこそ近所にお住まいの方が夕方子ども連れ出すなんていうこともあるかもしれないので、いろんな可能性を探っていただければと思って聞いておりました。ありがとうございます。

笠さん、お願いできますか。

○笠委員 最初のところで、今回大通公園という言い方をしていますが、この概要のところに大通の西1丁目から12丁目という、いわゆるその都市公園としては、このテレビ塔の西1丁目の東の部分と西13丁目というのは入っていないわけですね。

ですから今回の議論というのは、さっきの子どもの保育施設がよく利用するエリアで言えば、13丁目が一番利用されているわけで、そういうところも含めて今回議論をしても、都市公園ではないから何もできないということになると困るので、どの辺が対象なのかを明確にさせていただきたいです。

一つ、さっきのページ4の右上のところに現状④と書いてあるんですけども、ここには園路沿いは不法駐輪が見受けられるというのが書いてますけれども、これは園路ではなく道路で、中央区の道路の管理です。

ここは実際、ものすごく駐輪やバイクが非常に多くて、ほとんど歩道としての機能がなくなって、非常に歩きづらいという状況がみられるわけなんですけれども、そういうところも今回検討の対象にするのかどうかというのを確認しておきたいと思います。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 高橋です。公園部局ですので、都市公園の範囲というところで政策を展開していくことに落ちてしまう部分もあるんですけども、このあり方検討会では、もう少しその接する物との関係も含めて、幅広くご意見を頂戴したいと思ってます。

資料館、テレビ塔、それから隣接する道路との関係、3回目の検討会でもそういう部分のテーマの提示もありますので、広く議論いただいた中で、我々としてどこを受け止められるかといった部分をかみしめたいと思ってますので、よろしくお願いします。

○愛甲座長 はい、なので意見はそこに限らず出して構わない、お話して構わないということですね。ぜひそう言った観点でお願いいたします。

確かに、13丁目の資料館の裏側なんかは、一時期は遊具が置いてあったりもしましたよね。ぜひその辺も含めてお話していただければと思います。

他にいかがでしょう。小篠先生お願いします。

○小篠委員 小篠でございます。1ページ目の上のところに、89年の公園整備のときのゾーニングというのがあって、ごめんなさい、それは2ページ目ですね。1ページ目の下のところに、都心のみどりづくり方針策定当時のゾーニングイメージというのがありますけれども、これがずいぶん変わっているわけですね。

89年の時は、かなり旧式な公園のゾーニングっぽい感じで、花とか、水と光とか、そういう抽象的なゾーニングイメージでやっていたんですけど、みどりづくり方針のときは、先ほど椎野先生からもそういう話がありましたけれども、いわゆる、ちょうどコロナがあった時に一生懸命議論していて、その時に何が起きたかという、イベントがとにかくほとんどなくなり、普段の利用という目線で見直した時の、大通公園の再価値化というか、意味というのが出てきたね、という議論が結構あって、実際にそれは私も感じたところなんです。

さっき吉岡先生から、12丁目は花壇があるけど使う人少ないんじゃないかと言ったら、実はすごく多いんですよ。

バラが咲いている時はみんな見に来ますし、そういう意味では非常に利用が高いと私は思っておりますけれど、ある時期に特化するかもしれません。

一方で子どもの遊びの話も出ておりましたけれども、それで1ページ目の下のところに、「子どもが遊び健やかに」というところで、皆さんご承知の通り、白い大きな滑り台と言ったらいいのか、築山があるところと、ブラック・スライド・マントラのところは、利用度が高いので、そういう位置づけになったというのが、89年とは全然趣を異にしているということになるわけなんですけれども、一方で、笠さんが言っているように、全長で1.3キロ、1.4キロくらいの長さを持つ公園という形になっていて、それぞれの場所の、公園の周辺の土地利用とか札幌市における都市計画上の位置づけだとか、そういったかなり意味合いが異なっているところに存在している公園なので、そういう意味で、使われ方、これからの位置づけということも含めて考えていかなければいけないというのが、ここの公園の難しいところだと思うんですね。

都市デザイン的に申し上げると、さっきちょっと申し上げたように、白い大きな築山を滑り台のようにして遊んでいる子どもたちがたくさんいて、見ててほほえましい感じ、というのがございますが、あれって遊具ではないんですよ。

あれを遊具だと思う人はほとんどいないと思うんです。

だけどデザインとしてはどうしてそうしているかと言ったら、遊具めいたものがたくさん散らばっているような公園というのにふさわしいかどうか。

公園の格という風に申し上げておきたいと思いますが、そういった意味でふさわしいかどうかという、ちょっとやっば違うだろうと。

だけど、あれをまさに遊具と見立てて子どもたちが遊ぶというようなところで、都市のど真ん中にある公園としての意味づけというのが、うまくバランスを保っているのではないかなと私は思います。

ブラック・スライド・マントラも、イサムノグチの、著名な芸術家の作品ですけども、そういう意味では滑り台として使って、みんなで遊んでいるわけですよ。

そういう、両義性というふうに申し上げたいと思いますが、遊具なら遊具というだけではなくて、都市の景観としてもそれは非常に素晴らしいものである、というような

両義性をもっているような形でデザインしていかないといけないんじゃないかなと私は見えています。

それで、ゾーニングをやるときにやっぱりちょっと整理しとかなきゃいけないのは、この街区のこの公園の、街区ごとに1個1個デザインがちょっと違ってますから、それも含めて、何があるからこういう使われ方をしているんだとか、何があるから良いと思ってみんなが溜まるのかとか、逆に言えば何がないからイベントとして使いやすいんだとかですね、まあまあいろいろあるのかもしれませんが、そういう1個1個の今の現状のデザインに対しての評価というのがないと、次どうやって整備していくのかということにはなかなか繋がりにくいのかなと。全部チャラにして、真っ白いところから絵を描きなおそうという話では多分ないので、じゃあ今の評価というのはどういうもので、というところのデータがちょっと足りないかなと思ってまして、その辺加えていただくと、もっと議論の解像度が上がるかなと思って聞いておりました。以上でございます。

○愛甲座長 ありがとうございます。事務局から何か、今のことについてありますか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） あり方の議論いただいたものは、何らかの形で落とし込んでいかなければならないということなんですけど、出だしで過去の整備、あるいは現状の使われ方に固定したゾーニングから始まってしまうとあまり意味がないんで、先ほど椎野先生からも東側の方で、子どものためのものみたいな考え方もありますので、歴史的、機能的継承は大事なんですけど、どのくらい固定して考えるのかというのは、部内で考えてみたいと思います。

少しフレックスに考えた方がいいのかなという感じはしてきました。

○愛甲座長 ありがとうございます。

あと、小篠先生が言われた両義性を持ったもの、という話は私も結構共感するところがあります。

遊具の話がさっきから出てましたけど、大通公園には大通公園らしい、確かにあの周辺に住まわれている方は増えてきてて、子どもの遊び場としての機能が非常に重要というのは、もちろん分かってますけど、その一方で大通公園の遊具が、他の街区公園とか近隣公園にある遊具と同じである必要はないと思っています。

それはそれで補完する場所が周辺にあれば、住宅地としてあればいい話になりますから、大通公園にふさわしい子どもの遊び場というのはなんだろう、という議論ができればいいなと思って伺っておりました。遊具も含めてですね、他のものも含めてですけど。

高野先生お願いします。

○高野委員 1点目は非常に簡単な質問ですけど、先ほどからお話が出ている実験について、遊具の実験の時期が、これから12月の上旬ということで、一般的には雪も降ってくる頃で、なかなか外遊びしにくくなっていく時期で、この時期を対象とせざるを得なかったのか、あるいはあえてこういう厳しい状況の中で、どのくらい増えるのか見たかったのかというのが、本来であればもう少しポカポカしている時にやるべきかなという感じがあるんですけど。

まあ子どもさん冬でも元気に、ということなのかも知れないですけど、まあその意図が1点目です。

2点目は皆さん方から、椎野先生、小篠先生が言っていることにもつながるんですけど、札幌の大通公園と名古屋の栄の大通公園というのは、位置的にも似ているし、延長的にもまあまあ似通った部分があるんですけど、名古屋の方はもっとこんもりとした木立がかなり真ん中にあるんですね。

札幌はそれがほとんどないわけで、名古屋は暑いからということがあるかもしれないんですけど、札幌の大通は雪まつりがあるということが、やはり使い方に大きな影響を及ぼしているんじゃないかと思われまます。

そういう意味では、やはりそのイベントというのをたくさんやられていて、そのイベントを行うということも非常に重要な役割になっているので、どういうイベントがあって、それから逆にどのくらいそこに人が来て、駐輪とか、という話になりますと、イベント時はやはりいろいろな問題が出て来ると思うんですね。

トイレなんかはイベントごとに考えるって話なんだと思うんですけど、そういう主要なイベントを配置してみた時と、イベントのやりやすさとか、イベントにおけるいろいろな問題とかも踏まえたうえで、あり方を考えていくことが必要だと思います。

例えば、これは個人的な意見ですけど、今雪まつりをやるとかなり飲食と言いますか、ラーメンとかそういうのがいっぱい並んでたりして、ああいうのを辞めちゃって雪遊びでもできるような、ただの雪原にしといた方が、観光客も含めて楽しいんじゃないかと思ったりもします。

イベントの内容も踏み込むつもりは毛頭ないんですけど、そういうイベントの実態もデータとして、情報提供いただいて、それを組み合わせた感じで議論するというのも重要なことだと思います。以上です。

○愛甲座長 はい、ありがとうございます。

○事務局（高橋みどりの推進部長） この二つの実証実験は、各事業者さんと別個のところで進んでいた部分があって、なぜ今からという部分も、結構協議をしてきた結果この時期からということになりました。

今ちょうどあり方議論をやろうと言ってるので、であればあり方検討の中でその二つの実証実験を検証していこうという形で組み合わせたということです。

あり方議論で何の方向性も出ていないうちからやるので、フライングスタートではあるんですけど、ある意味先行的にこの2つをやってみて、それを材料にして、年度明けの検討会で議論しようかなというところなんです。

そのため秋口というのはどうかと、確かに客観的に見ればそうなんですけど、やれることは、今メーカーさんのご協力があるところなので、やろうという次第でございます。

それから2点目のイベントの関係なんですけど、これ次の2回目の議論で、「いこい」と「にぎわい」の両立ということで、深くご議論いただければと思っていますので、資料も用意したいと思います。

憩いと賑わいをどう充実させるかというのは、非常に重い課題だと思っています。

それは二回目までに準備したいと思います。

○愛甲座長 ありがとうございます。都心のみどりづくり方針の議論をした時に、イベントがどの程度、その前後の準備期間、撤去期間も含めて、どのくらいどの丁目が占有しているか、使われているか、という整理をしていただいた資料もあったと思うので、その辺も次回出して頂きたいです。

イベントと日常利用の関係性をどう作っていくかというあたりは、次回の議論になると思いますけど、ただ今日はもちろん、いろいろ気になる点を皆さんお集め頂いてかまいませんので、その辺も合わせてお願いできればと思います。

ありがとうございます。

他にいかがでしょう。入澤さん。

○入澤委員 IT推進協会入澤です。私はITの専門家、デジタルの専門家としてご意見させていただきますと思います。

まず一つ目に整備手法に関して、先ほど民間ボランティアの活動ですとか、参入する企業が減っているという話がありましたが、他都市の状況を見てもAIやIoT使って、整備の簡略化、またはその整備の合理的な取り組みをやっているところもありますので、ぜひそんなところを一つ入れて頂けるといいんじゃないかなと思いました。

もう一つは、これはちょっとデジタルというのはあれですけど、観光客がやはりこうSNSとかを使って大通公園の魅力を世界中に発信されています。その時にどのところで写真を撮るとどんな絵が見えるのかというところを、1丁画それぞれに特徴があると、もっと面白いんじゃないかなと思います。今だとやはり、4丁目のところからテレビ塔をバックに撮る方、もしくはオリンピックの今あれがあるところで撮る方、いらっしやいますが、そういう特徴的なものを、ぜひ各丁に置かれるといいのかなと。

文化のところかというと、銅像とかと一緒に写真を撮るってなかなかないんですが、例えば初音ミクみたいな、札幌から出ていった世界的なコンテンツ、こういったものに対する集客力ってものすごく実はありまして、まあ初音ミクの銅像なんかを大通に置くと、非常に観光客が集まっていいんじゃないかなと、思うところがあります。

また最後に私個人的な意見で、今回実証実験で分煙をやられるということなんですけど、私ものすごいタバコが嫌いな人間でして、今創成川通沿いに会社があるんですけど、創成川通も早く禁煙にしてくれないかなと、あそこ歩くの嫌になるくらい煙たいんです。

せっかくこうやって子どもたちが遊ぶ公園、観光客が集まる公園でタバコを吸っている人がいるというのはどうかなと思います。

大通公園を全面禁煙にさせていただいて、周辺ビルにむしろ喫煙所をつくることを義務化して、やるのであれば、本当にクローズドで煙が外に出ない、もしくはフィルターをちゃんとすることを、クローズドな喫煙所をつくと。

それをJTにつくらせるくらいの勢いで、ぜひやって欲しいと私は思います。

以上でございます。

○愛甲座長 はい、ありがとうございます。事務局からよろしいですか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 公園DXと国が政策を掲げてまして、この1枚目の資料にも載っているんですけども、なかなかまだ僕らはかみしめられないですが、当然これからリニューアルしていく中では、いろんな面でIT技術をどう組み合わせていくかというのは必要な概念だと思うので、検討していきたいと思います。

分煙に関しては、タバコの問題って健康問題、それから受動喫煙の問題、ポイ捨ての問題と幅広いですけども、そのすべての社会問題をこの公園で解ききれない部分もあります。

まずは入澤委員ご指摘のように、大通公園である状態がいいのかという局所的な部分。

それはどういう手当かという今回実証実験ということで、JTさんと協力してやっていきたいと思ってますので、これから効果を見ていきたいと思ってます。

○愛甲座長 ありがとうございます。

デジタル関係で言えば、私はちょっと思ったのが、これは次回以降でもいいんですけども、どの程度Wi-Fiが大通公園内では通じるのか、そういう整備も必要で、SNSとかを使っていただくためにも、できるだけそういう環境を整えるというのは大事です。

あとDXの観点で行けば、利用者の利用状況とか密度とかを測るためにも、その利用を測定するためにも、そういう技術を積極的に活用していくという部分もあると思います。

それも大通公園では積極的に、札幌では一番取り組みやすいというか、取り組むといいのかなと思ったりもしていました。

実証実験には間に合わないかもしれないですけど、ぜひそういうこともあるといいなと。

タバコについては、私も個人的には、実は昔は喫煙者だったんですけど、今は逆に嫌で、公園でなんでタバコ吸うんだらうって思っちゃうんですけど、実証実験やるときに今日ちょっとお願いしたいのが、喫煙所の利用状況調べるってことになってますけど、逆に喫煙所を作ったことで、周辺でどのくらい喫煙が減ったか、要はそうじゃないと喫煙所をつくる意味がないですから。

結局、喫煙者が増えただけで、他のところでの喫煙者は減らなかったということであれば、ただ大通公園に喫煙者を集めただけじゃないかという話になっちゃうので、それでは本末転倒になってしまいます。

少なくとも喫煙所をつくったことによって、他の丁目でばらついていた喫煙者が一か所に集まって、少しは他の場所が良くなりました、ということであれば、まだ少しは評価できるなと思います。

その辺の評価も一緒にやっていただくといいかなということを、今入澤さんのお話を聞いてて思いました。ありがとうございます。

玉田さんお願いします。

○玉田委員 北海道開発局の玉田と申します。

資料のページ2でご質問だったのですが、中段の現状③に利用目的の変化というところがございまして、下の方の利用目的で子どもの遊びのパーセンテージがかなり低いなと思われました。

いろいろ現状とか皆さんのお話を聞きますと、保育施設の方々が使っているのが多いのかなと思っておりませんが、結果としてこのアンケートで少ないというのは、どういう傾向だったのかというのを、一つ教えていただきたいなと思います。

○事務局（乾係長） この調査の結果につきましては、ここに書いてある通り、100人程度の方から複数回答で、どういう目的で来たというのか、というように取っております。

結論から申し上げますと、取った方のステータスによって、子どもの遊びの利用が少なかったのかなと思っております。

実際には年齢構成ですとか性別等々、均等になるような取り方はしてはいるんですけども、その際の取り方として、来やすい、使いやすい目的として、一番最初に上がってくるのは、散歩で訪れる人が多いとか、あとは観光等々で来たというところ。

そのほかのところも含めて、やっぱり公園の中でまずは過ごす、というところが多かったと考えています。

○玉田委員 ありがとうございます。

一つに保育園の方々とか、近所の方々が使われる一方で、少し違う地区と言いますか、離れたところの方々が使われていないのかなという印象も受けて、そういう結果もあるのかなと私は思いました。

そういう離れたところとか、そういう方々も使えるように、こういうとこ使えるんだよ、というPRも重要なのかなと思っております。

今後の整備に関しましては、親のご意見も当然なんですけど、子どもの意見も聞きながらワークショップ的なものを開いて、こんな使い方をしたいとか、そういう子どもたちの意見も幅広く踏まえて、整備計画を作っていったらよいのかなと思っています。

以上でございます。

○愛甲座長 ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思います。

私以前桑園小学校の校区で、ここの北西側にある校区の小学校で調査をしたことがあって、桑園小学校って小学校区内に街区公園しかないんですよね。近隣公園も地区公園もないんですけど。

その時に聞いてみたら、結構な高学年の子どもが大通公園まで遊びに行っている。

校区は超えているんですけど、そういうことも実はわかったりして、意外と実はあるんですね。

アンケートをやってみるとあまり出てこないですけど、こういうところも気にするべきかなと、今玉田さんのお話を聞いて思いました。

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。池ノ上先生お願いします。

○池ノ上委員 池ノ上です。私としましては、今回空間利用をどうしていくかということ、運営も含めたマネジメントをどうしていくかということがテーマなのかなと思って参加をさせて頂いています。

その上で、最初なので大方針といいますか、今回ゾーニングの話も出ていますが、そもそも大通公園をどう位置づけていってどんな方向に行くのか、というところが重要じゃないかなと思ってます。

一つは、いろいろ皆さんご意見お伺いして、共通する点もありますし、どうするんだらうというところもあると思うんですね。

現状も見ていると、小篠先生も少しお話されていたかもしれないですが、マネジメントというか、いろんな要望、いろんな期待があると思うんですね、この公園に対して。

それをうまく現場のレベルでマネジメントして、なんとか入れ込んでいるなどは思っているんですけど、その分逆にギャップというか、矛盾も起こっていて、つまりこの公園って何なんだろうみたいなのが、よくわからなくなっている気がするんですね。

誤解を恐れずに言うと、長細いということもあって、ゾーニングを細かく切っていくことで、うまくいろんなニーズに応えるということをしています、小さな公園の集まりなのかな、というように見えなくはないかなと思っています。

でも一方で、他の委員の皆さんも発言されてましたけど、やっぱり札幌を象徴するセントラルパークなんじゃないかと思うんですね。

その部分が二項対立というか、相反する概念かどうかは別として、どちらの方針でやっていくのか、というところは決めておかないと、なかなか難しいかなとは思っております。まずそのあたりについて、お考えをお聞きしたいと思います。

○事務局（高橋みどりの推進部長） まさにそこらへんが難しく、逆に皆さんのご意見をいただきながら、何とか2年間でとりまとめたとは思っているんですけど、小さな公園の区画の集まりだけじゃだめなんでしょうね。

都心の中であって、しかも横に2キロと非常に長い、かつ一つ一つ分断されたこの公園を、都心の構造としてどう解くかという命題なんだと思います。

公園だけの理屈じゃなくて、経済や景観とかいろんな理屈で、どうコンセプトを叩き直すというところなんだと思います。

ただやっぱり公園なので、遊具の問題とか、樹木の問題とか、ベンチの問題とか、一つ一つの公園のパーツとしての成立要件もあると思うので、どう組み合わせていくのかを高い視点から落として頂ければ、僕らも何とか理解できるんですけど、というところです。

○池ノ上委員 ありがとうございます。

そういう意味で言うと、事前説明のときも教えて頂いたんですが、皆さんに配っていただいて「札幌市都心のみどりづくり方針」の、23ページ。

大通重点エリアの方向性ということで、都心の発展に向けての魅力と機能の向上みたいなことが書かれているんですね。

ただ、これも小篠先生もおっしゃっていたかなと思うんですけど、都市そのものがこれからどうあるべきかということも、変わってきていますよね。

従来はどちらかというところ経済発展のための場として、そのために効率性と合理性を高めていくということが都市に求められていたことだと思うんですけど、そんな都市はほとんど求められていない。

札幌はまだかろうじて、そこで生き残っているかなと思うんですけど、同じモダニズムの最後の在り方かなと思っています。

実際市民の動きとか、今委員の皆さんがおっしゃっていた内容を見ると、札幌都心であり、この公園に対して期待していることは違うというのが感じられるかなと。

これも小篠先生の言葉を使って申し訳ないんですけど、普段使いというお話をされていて、普段使いということと、都心に求めていることが、どれくらい両立させていけるのか、というところが一つ重要な論点になってくるのかなと思います。

私一応観光という視点でも参加させていただいているので、そういう意味で言うと、観光の方も、従来のいわゆるマストツーリズムというか、団体の人が同じ目的を持ってワークと来てワークと帰るみたいな、ごみも落とす時間がないみたいな観光というのはほとんど失われています。

一方で中国人も含めて、いかにその街らしさとか地域らしさとか、ライフスタイルみたいなものを享受できるか、ということを目指す観光客の方が増えていると思うんです。

世界的にはそういう観光戦略をとるようになっていく。

私も札幌の観光まちづくりビジョンの策定には関わらせていただいて、そういう要素が札幌の戦略の中にも盛り込まれていくのかなと思っています。

そういう意味で言うと、都市の在り方とか、観光の在り方とか、いろんなものの視点が変わっていった中で、公園も、従来の都市の在り方や観光の在り方ではないところで進めていけると、皆さんがおっしゃっていることを、無理せず入れ込んでいくことが出来るのかなと考えています。

そのあたりも皆さん少し議論して頂ければということで、おそらく第2回、第3回の話にもつながっていくのかなと思っています。

○愛甲座長 ありがとうございます。

非常に難しいところで、普段使いとイベントなど街の中心として果たさなきゃいけない役割というのを、小さい公園の集合という表現もありましたけど、どうやって細切れになっている中で果たしていくのかというのは、非常に大きな問題で、それこそ次の回遊性の向上にも結び付いていくような話だったと思います。

その一方で、歴史的なことも考えると、3丁目から7丁目までは、以前歴史的に作って、長岡安平の書いた絵があって、このパンフレットにも載っていますが、そういうことの継承も非常に大事な部分です。

先ほど木立の話もありましたけど、木が大きく茂っている部分、クジラ山と呼ばれていた部分の緑地と、子どもたちの遊んでいるあの場所と、それからさらに西側の区域と、歴

史的にもそれぞれ経緯が違うので、それぞれの場所をどう継承していくかというような問題もあります。

その辺も含めてまたお話をさせていただければと思います。

一番目の話でだいぶ時間をとってしまいましたが、他のところにも影響するようなお話も頂いていました。

中島公園の話もしなければいけないので、最初にいただいた議事の進行要領では1つずつやっていく予定になっていたんですけど、一個ずつ皆さんにお話しを伺っていると、多分今日夕方までかかってしまいます。

なので老朽化の話、回遊性の向上の話、それから民間事業者の連携の話、それぞれちょっとずつ視点も違って、一度にやってしまうのはもったいない感じもするのですが、今日は最初の入りで、残したものはまた次回議論できればいいので、それ以外の視点のところをお話していただきたいと思います。

老朽化の対応、再整備の検討、樹木の植栽の話、それから回遊性の向上、これは賑わいをどう作るかとか、今お話をいただいていた新たな可能性とも関係してきますので、この辺について次はご意見を伺いたいと思います。

森先生先どうぞ。

○森委員 回遊性のところと絡めて、こういったことも検討できるのかという視点でお話させていただきたいと思います。

それはですね、4ページ目のところの、西10と11の間が、かなり自動車交通量が減少しているという結果が出ているかと思います。

それと先ほど来出ています保育施設が良く利用するエリアである西側のエリアとリンクしてきていると。

また実証実験を西10でされるということですが、先ほどの小篠先生の両義性というのは私も同意見で、例えばそこに遊具を置くだけで子どもが遊べる空間をつくるということのみならず、やはりそこを一体化して行って、子どもの遊べるスペースにもなるし景観上も素晴らしくなるし、回遊性も向上するというような、一挙両得のようなこともここで議論できればいいなと思っておりましたが、そのあたりに関してはいかがでしょうか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 道路を廃道して公園をつなげるというのは、実は昨年の3月に報道に出て、ご指摘をたくさんいただきまして、それありきではなく、まず大通公園の在り方の議論が大事だと。

実際そういうことで、市長以下我々も検討を進め、今日があるわけです。

そういうことですので、その辺を包含した、より幅広い概念として、今回の資料の回遊性の歩行者ネットワーク、あるいはウォークブルみたいなところで、どういう観念があるかということから落とし込んでいただければと思います。

3回目の検討会では、道路空間との、沿道との一体性みたいな、周辺インフラとの配分の議論も出てきますので、ダイレクトにつなげてどうするというのはもう少し控えめにし、広めなところから落とし込んでいただければと思います。

ただ森先生ご指摘のように、そこで回遊性を高めて何をするかは、非常に大きな魅力向上の要素だと思いますので、ぜひご意見いただければと思います。

○小篠委員 今のお話もすごく大事な話なんですけど、もうひとつ回遊性のところであるかなと思うのが、先ほど笠さんがちょっと言われたんですけど、街路の部分と公園の部分が認識的にオーバーラップしているところがありますね。

南大通、北大通との境界部分ですけれども、これが考え方のいい例として、境界を引くのではなく、境界を一回外して、両側で議論しないとだめなところというのがありそうだと認識した方がいいのかなと思っています。

例えば駐輪場の整備は、南一条近辺の商店街の方々には昨日話をして、どうするかと、用地として可能性がないのかという議論をずっと都心交通研究会でやっていましたけど、なかなか妙案が今のところ出ているわけではない。

札幌市さんは地下駐輪場の整備をされているので、徐々に努力が実ってきているということはあるかなと思いますけど、そういう道路側につくるべき施設と公園をどう見るのかというのが大きくあるのかなと思います。

もうひとつは、都心交流拠点とどう位置づけるのかということが、やっぱりすごく重要な議論としてあるのかなと思っています。

先ほど森先生が言われた11丁目をまたいだ両サイドと、もう一個大きな道路としての位置づけがあるのは駅前通りですよ。

その下を交流拠点として整備されて、今のところ運営上の問題がいろいろとありますが、それはそれで上のところは道路と公園だよ、と切ってしまうのではなく、そこをどう一体的に見るか。

あるいは、地区計画として四つ角という形で4つの街区のエリアのところも、様々なルールが定められておまして、道銀のところもこれから参加されていく。

そういうことであれば、そののところと大通とを一体的に一回見て、どう方向性を定めていったらいいのかという議論は、やっぱり欠かせないものだと思います。

5ページのところに、地区計画を定めているエリアあるいはまちづくりを検討されているエリアということで、赤点線が入っているところがありますけども、これが一部大通公園側にはみ出して書かれているところもあれば、ちょうど北大通で止まっちゃっているところもあるのですが、もう少し公園を含んだ議論にならないかということも含めて考えていく必要があると思います。

なにもここにハードをつくれという話だけではなく、結局先ほどございましたマネジメント、管理運営のことについて、どう街区と一体化してやっていくのかという話もできることになっていくんじゃないかと思うんですよね。

久屋大通の話が高野先生からもご指摘ありましたけれども、よく新聞報道になったりするののお店がたくさん並んでいるところですけど、あれよりずっと西側の名古屋城に一番近いところの方に行くと普段使いの整備がされています。

そこにあるものが何かと言ったら、例えば、小さい本屋さんとかカフェがついているやつとか、そこに遊具を置いているわけではないですが、子どもの遊びを考える企業が入っているちょっとしたカフェとか、あるいは街づくり団体がいろんな活動をするためのサテライトオフィスとかですね、そういったものが立地しているんですね。

目線としては観光というよりも、普段の公園利用者に対する目線なんだけど観光客も入っても全然問題ない。

先ほど池ノ上先生が言ってたけど、そういう目線でこれからの観光を考えていくというのも、大通公園の将来を考えていったときの観光の位置づけとして、あるのかなのかという議論をしていくのも大事な視点かなと思っています。

その辺のところを皆様方と議論できればいいかなと思いました。以上です。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 道路側との関係は、公園敷地と隣接した歩道部分の活用ということで、3回目の検討会でもテーマにしようと思っています。

公園がお尻を向いているような設えになってだめだなと。ただ道路区域なのでというところが、ちょっと頭が固くてすみません。ただそこをどう使うのかというのが実は大通公園のこの並び方のすごい肝になるというのは分かっていますけども、物理的にどうしようか議論をいただければと思っています。

あと地下の大通交流拠点との関係、これ特殊ですよ。

表層と地下層と二つのネットワークがあって、双方に各丁目で上下に動線をつくっていかなくちゃならないということなんで解き方が難しいですが、まさに先生が言うように、周辺の再開発とどうワンクッションをおいて上下繋いでいくかということになっていくのかなと思います。

単純に地下鉄の入口とかコンコースの出入口を増やすという意味じゃないと思っているので、民間開発の出待ちな部分もありますけども、考えていきたいと思っています。

その一例としましては、この図には明確に書いていないですけど、西4丁目の道銀の再開発は公園区域も再開発区域に入れて、公共貢献として西4丁目大通公園のお手伝いをしていただけたらなっています。まだ具体的な検討は進んではないですけど、そういう事例を何らかで、上下のネットワーク、平面のネットワークというのを意味づけしていければと思っています。以上です。

○愛甲座長 ありがとうございます。

今の話について言えば、まちづくりの方で作った、「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌都心のはぐくみ軸強化方針-」というのが、ちょうど10月に都心のみどりづくり方針と一緒に出ています。

その辺も3回目の議論のときにぜひ一緒にご紹介していただいて、今みたいな周辺との関係を整理したり、回遊性というのも、別に公園の中だけの回遊性じゃなくて、周辺の街区も含めた回遊性というのも含めて議論しなければいけないと思いますので、ぜひその辺も皆さんと議論できればと思います。

ありがとうございます。

高野先生お願いします。

○高野委員 単純な質問で、小篠先生のご指摘もあった4ページ右上の園路沿いの不法駐輪と書いている園路なのですが、この園路というのは、目的は歩道なんですよ。

1メートルあるんですかね。ちょうど歩道にも狭いし、ちょうど自転車を停めたらどうですかみたいな空間になっているので、不法駐輪を呼び寄せているような空間になっていますが、目的は歩道ですかね。

○事務局 歩道です。

○高野委員 歩道になっているわけですね。非常に狭い歩道ということですね。1メートルくらいですか。

○事務局 2メートルちょっとあります。

○高野委員 2メートルちょっとあるんですか。

それとも関連するんですけど、4ページの考察の3つ目で、現在の東西方向のほか、南北方向のネットワークの形成というのは、これは北大通、南大通等、周辺街区と大通公園くらいのイメージなのか、それとももっと大きなイメージなんですか。

北大植物園とか、左上にありますけども、どのくらいの南北ネットワークの動線というのは、どういうイメージなんですか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 明快に答えを持っていないですけど、やっぱり道庁とか、みどりとみどりをつなぐというのが解き方の出発点かなと思っています。そういうところで景観的にも、あるいはそちらから見たときに大通公園がファザードのようになっているかなという概念かなと。

○高野委員 そのくらい大きな意味での南北のネットワークということですか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） そういうところから解いていこうかなと。

○高野委員 わかりました。ありがとうございます。

○愛甲座長 今の歩道の話で言えば、今年結構積極的に自転車の駐輪の対策をしていただいたこともあって、空いたところの歩道になっているところを結構な方が歩いているのを、学生と今調査をして、観察していました。

歩道として使われているので、駐輪の対策をきちんとやれば活用されるのかなと思っています。

吉岡先生お願いします。

○吉岡委員 全体的なところで、意見したいと思います。

今の回遊性の話で、南北にも少し広げて考えていきたいとあって、実際東西に比べて南北の方は移動しづらいんですけども、おそらく子ども連れの方とかですとかは、道路がすぐ横にあるので、ちょっと危険な状況でもあるので、すぐ道路に行かないような形になっているところも多いと思うので安心感はあるんですが、逆に、こういうことを言うとまた市民の方からお叱りを受けるかもしれないですが、南北の道路をなくしてしまったらいいなど。

そういう風な形で考えたらすごく夢が広がるなと思います。

周辺の建物ですとか、もう少しここを拠点に先ほど子どもの遊ぶエリアだったら、それに関連した何かこう、絵本を扱う商業施設、小さいものでも来たりすると、そこに行けば何かそれに関連したとこで、遊ぶ場も公園として遊べるし、そういった必要なものにもアクセスしやすいような、そんな場所になったら夢があるなど。

あと小篠先生がおっしゃったように、遊具とかというのは、子どもはあまり喜ばないんですよね。

築山があったりとか、自然があるだけで十分遊べるので、そんなイメージでつくっていくのも、すみません好き勝手言ってしまって、以上です。

○愛甲座長 ありがとうございます。もっと夢のあるプランが出てきました。連続化よりも大胆なプランが出てきました。

○池ノ内委員 私も同じような関連した意見なのですが、先ほど私がお話したことも含めると、一つは無理にニーズを詰め込まないで考えていくことが重要なかなと思っています。

今おっしゃっていただきましたけど、場所がなければ、沿道とか、小篠先生もおっしゃった駅前通り、北三条広場も含めてですね、空間利用していくということを考えていけばいいんじゃないかなと思っています。

このあり方でそこまで言うかは別ですけど、もう大通公園はこういうあり方なので、一定のもの以上は受け入れられないというような整備方針も含めて、決めていくことが重要なんじゃないかなと思っています。

その上で、多様なニーズへの対応も重要になってくるので、そういう意味で言うと今回の資料の5ページの民間事業者との連携とか、パークマネジメントみたいなことで、柔軟に一定の空間を使えるように、柔軟に対応できるようなことを仕掛けていくとか、周辺のまちづくりとの連携みたいなお話も出ていたと思いますが、そういうところを見越した展開ができていくといいかなと思っています。

福岡が今まさにそういうマネジメント組織で、天神ビッグバンというのをやっていると思うんですね。

あれは先ほど私が申し上げたモダニズム型の最後の都市開発というか、商業ビルをどんどんでかくしていこうみたいな話ですので、それを仕掛けたのもある意味官民連携の一つなのかなと思っていますが、逆に言うと札幌はこの大通公園みたいな、人に愛される、人が親しんでアクセスしやすいものをベースにしながら、必ずしも周りのビルのボリュームを上げていくということではなく、違う形の、札幌大通ルネッサンスじゃないですけど、人が親しみやすい空間をもう一度札幌が取り戻していく拠点というか軸みたいな形になっていくといいなという、これも私の夢ですけど、あくまでそういうイメージで進めて頂ければありがたいかなと思っています。

○愛甲座長 ありがとうございます。他にいかがでしょう。笠さんお願いします。

○笠委員 先ほど道銀のところの再開発というか、公園を含めて公共貢献で整備をするという話がありましたけども、ちょうど北3条広場、あれはJTの社会貢献で整備をして、そ

の時に私と小林先生でデザイン監修をしたんですけど、レンガの色まで全部考えながらやらなければいけなかったというのがあった。

たまたまその区画、北三条は離れてるからいいんですけど、この場合例えば4丁目をそのような形で整備しても、他との連続性が保たれなくなる可能性が非常に高いわけですよ。

ある程度整備のガイドライン的なものを大通として作ったとしても、やはりそういう整備というのは関わる人の個性が相当出てくると思うので、果たしてその連続性が保てなくなる可能性がどうしても出てくるわけです。

そのようなことが各丁目でもし行われるようになってしまえば、果たして大通はどうなるのか。

その辺の歯止めみたいなものをどう作るかというのは非常に難しいんじゃないかとは思っています。

ちょっと民間に頼るというのも、ある程度その辺は、私としては大通の場合には無理じゃないかという気持ちです。

○事務局（高橋みどりの推進部長） おそらく、西4丁目の道銀ビルの再開発が先行していくんだと思います。

その時に先ほど言ったように都市計画の位置づけの中で、西4丁目の整備を再開発事業者が何かをやるということですが、笠先生ご指摘の通り、西4丁目だけ何かやるとなると、他の丁目とのバランスがよく分からなくなってしまいます。

なのでまさにこのあり方検討を踏まえて、あり方を取りまとめた中で、トータルのコンセプトとか1丁目から12丁目までのトータルのゾーニングの大まかなイメージというものを定めておいたうえで、4丁目沿道の再開発の事業者さんと、どういうデザインや、どういう設えのコンセプトでやっていくのかというのを協議していくのに間に合わせないといけないとは思っています。

すべてがビシッと同一のコンセプトで再整備できるということにはならない部分はありますけども、少なくともあっち向いているような方向にならないようにするのが大事だとは思って、その部分は急ぎのプロジェクトだと思っています。

○愛甲座長 とても重要なポイントで、急ぐというよりは気を付けないといけないところですね。気を遣わないといけないところではあると思いますので、時間的にちょっとどうかかわからないですけど、この会議の中でも適宜情報提供いただいて、もしそういったお話を余地があれば、いろいろご意見をうかがえるような場にもしていただければいいのかなと思ったりもしていました。

他にいかがでしょう。椎野先生。

○椎野委員 今年の五月だったかな、森先生と一緒に実習をやらせていただいて、大通公園を東から西に学生と一緒に歩いたんですけど、その時に何気なく歩いてみて、8丁目と9丁目のところにあるイサムノグチのブラック・スライド・マントラのところに立って、東西の軸を見たんです。

そうすると、やっぱり碁盤の目だから、もともと道路だったところに自分が立つと東西の軸線がすごくきれいに見えるんですね。

ごめんなさい、東西じゃなくて南北の軸がとてもきれいに見えて、もしかしてイサムノグチはこういうことをやりたかったんじゃないのかな、と作家の想いに少し触れたような気がしました。

私は仕事上作家タイプの先生が職場におりまして、作家タイプの先生って本当にわがままで、こっちもいろいろ付き合ったり話をまとめたりするのに本当に苦労しているんですけど、すごくいい仕事をすることもあります。

申し上げたいのは、イサムノグチがいたおかげで、ここは道路が公園になったし、当時の作家の思いみたいなものを、多分当時関わられた方々の資料とかそういうのに残っているんじゃないかと思って、ぜひそういうものを、もし残っていれば掘り起こして頂いて、当時作家がどういう想いで道路に作品を置こうと考えたのか、そのあたりを調べてこの構想に使えるものがあればいいかなと思いました。

○愛甲座長 ありがとうございます。重要な点だと思います。

先週の土曜日に、造園学会の北海道支部大会があったんですけど、その時に札幌市立大学の学生さんが大通公園の設計の課題をポスターで発表されていて、出てきた案が丁目の間を歩道橋でつないでしまう、というプランを見て斬新だなと思いました。

これも公園に新たな視点を加える機能ですし、いろんな考え方があるなと思って見えました。それも今話を聞いていて思い出しました。

あと時間的にも少なくなってきたので、老朽化のところをほとんど議論していないので、老朽化は淡々と古くなった施設とか、入れ替えがあったり、西4丁目はそれこそ大きな改修もひよっとしたらあるかもしれないというようなこともあり、そのうえで残していかなきゃいけない記念物とかそういうのは相変わらずありますし、大通公園のもともと持っている地区の中に歩道とか、中央に花壇があって、という形態、それから周辺に花壇がある、大通花壇というのもひとつの大通公園の継承しなければいけない、これは民間事業者との連携という意味でも非常に重要なポイントですので、守っていかなければいけないものがある中で、整備していかなければいけない部分もあると思います。

気になるのが、老朽化のところに出てきている樹木の関係ですね。

参考資料のところにも各ポイントで撮っていただいた写真などもありますけど、現状として現状③のところにも再整備当時より樹木がかなり繁茂しているという話も出てきたりしているんですが、笠さんこの辺コメント、現状についてのお話を少し伺っておきたいなと思っておりましたので、すみません急に申し訳ありませんけどお願いいたします。

○笠委員 大通の植物管理はもう30年以上前からずっと関わっていたということもあったんですけど、もう30年前と今というのは木が全く違うくらい大きくなっているわけですね。

ところが本数はほとんど変わらない。

つまり非常に過密状態という、やっぱり常に公園の管理の場合はマスコミを気にして木を切るということはなかなか踏み切れない。

一度もう10何年前ですけど、みどりの推進部で樹木検討委員会というのを3年間やった時に、公園の再整備にあたって過密の木を思い切って間引くというのを30件ほどやって、非常に地元からも好評だったという、そういう経緯があるんですけど、大通の場合も植えたものがそのままになっているもんですからひどい状態になっている。

そういう間引きみたいなものを思い切ってやるということ、特にもうこんな一番札幌の街のど真ん中なんですから、この辺はもうどんどんやらないといけないので。

どこでもそうなんですけど、木を切ることに反対する人はいっぱいいるんですけど、それはやっぱりプロとして堂々とかいうことだから、例えば樹種なんかでもシンジュとかネグンドカエデとか、非常にまずい木がいっぱい生えているので、そういうものを思い切って整備をするということは当然必要なわけですから。

こういう検討をする中で、そういう姿勢を明確に示して、健全なみどりを育成するということを思い切って踏み込んでいただきたいと思っています。印をつけるのであれば私全部印をつけてもいいですから。

○愛甲座長 ありがとうございます。ぜひその際はご協力いただければと思います。

高野先生お願いします。

○高野委員 簡単な質問なんですけど、5ページに民間業者と連携という部分で、いろいろボランティアとか民間企業の力で運営されていることは分かって、これをレガシーとして受け継ぐということは賛成なんですけど、他のボランティアでやられていることについては、それぞれの団体の高齢化で、どんどんボランティアする人が少なくなってきて、継承がうまくいかないというのはよく目にするんですけど、この今のやり方は例えば20年後を考えても特段問題なく時代継承があって、このままのやつをレガシーとして受け継いでいけるかどうかの見本というのはどんなものなのか状況を教えてください。

○事務局（鈴木みどりの管理担当部長） みどりの管理担当部長の鈴木でございます。

公園のボランティアとか、いろんな形での札幌市もボランティア制度に対して支援等をやっているところですけども、どこの団体でも言われているのが、やはり今ご指摘の通り会員の高齢化ということで、中には継続性が厳しくなってきたということで、活動場所を縮小したりとかやめていったりしているケースも確かにあります。

そう言った中で我々ができるのが、若手が入ってきて欲しいということなんですけども、そういった気軽に参加できるような、ボランティア活動にそういうきっかけ作りというのはしているんですけど、効果はというと、著しい効果を発揮しているわけではなく、厳しい状況ではあります。

ただこのところずっとそう言いながらも、ボランティア登録の数については、極端に減っていることもない状況でございます。

なので、急にボランティア活動がなくなって、こういった活動や管理に支障が出るというような認識ではないんですけども、ただ先ほど言ったように20年先大丈夫なのかというと、その保証は一切ないし、私も不安に思います。

短期的な支援、それから長期的なところも含めて、いろいろ考えていかなければいけないので、今やっている事柄だけではなく、いろんな活動に参加しているかたの意見を取り入れながら継続できるようには進めていきたいと考えているところでございます。

○笠委員 花のボランティアの育成を私もずっとやってきた中では、札幌の場合に「花とみどりのネットワーク」という仕組みを、今公園緑化協会の中に事務局があるんですけど、このネットワークの活動というのが、札幌市内いろんなところで活動している人たちを、横のネットワークを作って、情報交換をして技術継承をすると。

そういうことをずっとやってきているもんですから、非常にレベルは高くして他の街に比べて絶対誇れる存在になっていると思うんです。

特にその中で、大通で活動するというと、皆さんの希望としては非常に強いんですよ。

やっぱり、言っちゃ悪いけど、手稲でやるよりは大通でやって、たくさんの人に見ていただけるというのは、ものすごくやる気に満ちた活動になるので。

そういう意味では大通の場合には、非常に活動のレベルが高いまま維持できているという、それから新しい人も結構入ってきているということがあるので、そういう意味でも大通の特性は十分期待はできているんじゃないかなと思っています。

○愛甲座長 ありがとうございます。

大通で活動したいというのは、アーバンスポーツと同じですよ。

見られるというのは活動する意欲に関わってきますし、

私もボランティアの関係のこといろいろ調べたりもしていますが、従来の組織は少しずつ高齢化していったり、いろいろ問題を抱えている中で、若い人が決して園芸活動とかに興味を持っていないわけではないんですけど、働き方も変わってきたり、子育ての仕方も変わってきたりすると、関わり方は変わってきますし、あと情報のチャンネルが変わってきているので、それに合わせた情報提供をきちんとしていって、それぞれの人に合うような機会を作るとするのは相変わらず続けていかなきゃいけないので、その時にそれこそ公園のDX化の中にも、人のつながりを、どうやってネットワークを作っていくかということ中にも関係あるのかなと思っていました。

他にいかがでしょうか。どの論点に限らず。

吉岡先生お願いします。

○吉岡委員 あまり意見が出ていない老朽化に対応した再整備というところで、私は噴水などに詳しいわけではないので、質問なのですが、こういった噴水ですとか水に関する施設がずいぶん整備されていると思いますけど、こういったものに対して、市民の方たちの親しみですとか、ぜひ、長くこの水場を保ってほしいというような声というのは、どの程度あるのでしょうか。

○事務局（鈴木みどりの管理担当部長） 特に噴水に関して特化した形で、愛着があるかというようなアンケートや調査は、ちょっと私も記憶がないので、ただ、現状として噴水がある丁目、暑いときとか、そういった時の利用者の状況を見ると、やはり非常に噴水というのは利用者にとって大変心地のいい空間として提供できているのかなというのは感じております。

簡単にこの噴水に関しては、今後もあったらいいなと感じているところです。

それから老朽化に関してですが、設備関係というのはやはり構造物と違わせて、かなり老朽が激しいということで、今年度も本来稼働していなければいけない時期であるにも関わらず一時止まっていた時期もあり、市民にご不便をおかけしているというのも実情でございます。

○吉岡委員 ありがとうございます。夏場に噴水の水で涼をとるといような子どもだったり、姿が報道されたりして、すごく市民も親しまれているので、一定程度はこういった水場というのは必要なのだと思いますけど、現状を維持することが必要なのかというのは少し検討が必要であろうと思います。

あと12丁目のカナル噴水ですとか、こういったところの、すみませんこれも利用状況はわからないですけども、こういった噴水ではない形の水場というのがどの程度必要なのかというのもトータルで考えていく必要があるかと思えます。

あと先ほど銅像ですとか、碑がたくさん大通公園にございますけども、その維持もかなりお金も必要になってくると思えますので、こういったものも撤去するとかとなれば、大変いろいろ議論があるのかもしれないですけども、これも必要に応じて考えていかなければいけないんだろうなと思えます。以上です。

○愛甲座長 いろいろ、噴水とか碑の撤去については議論があるところだと思います。

ありがとうございます。

その一方で水を使う施設というのはそれなりに、動力というか電気も水も使いますし、昨今の環境的なことも考えて、コストのことも考えると、できるだけ現代の技術も使って、省エネルギー、もっと効率的なものに入れ替えていかないといけないということはあると思えます。暑さも増してくると、ますます水の遊び場とかは需要が増えていくことも考えられるので、検討していただければと思います。

○小篠委員 今の噴水の話なんですけど、大通公園にあるやつって、割と旧式のいわゆるステレオタイプの噴水なんですよ。

他の都市とか、ヨーロッパとかに行くと、GL、床が地面とほぼ一緒で、そこから水が吹きあがってくるようなものがあるんです。要は水たまりがないということですね。

噴き上げてないときだったら歩いて通り抜けることができる。

よく広場に噴水をつくろうという話になった時に、水たまりを作るとそれだけ占有してしまうので、広場の利用としての機能が落ちちゃう、ということでああいうのがデザインされていたりしますし、子どもたちはそこをバーっと通り抜けたたりして、楽しむこともできる。

子どもだけでなく大人もそうしますけども、そういうような新しいデザインの噴水、噴水のオブジェといってもいいのかもしれないですが、そういったものがあるので、ただこれが非常に市民に慕われていて、大通公園の景観として非常に重要な要素だということになると、それは残さなきゃという話になるかもしれませんが、少し似たような円形の水たまりがあって真ん中から吹き上げるというような感じのものが多いので、場所によってはそのデザインの方向性、先ほどから言っているように、その街区、あるいは周辺の大通公園としての街区の位置づけに即した形で改善していくというのは考えても良いんじゃないかと思います。

全て後生大事に同じデザインをずっと維持しないといけないということはないんじゃないかなと、この際そういうことをちょっと考えてもいいかなと思いました。

○愛甲座長 はい、ありがとうございました。

今のも非常に必要なアイデアでその辺も議論できればいいと思います。

ちょっと私の進行もあって、まだ十分話足りてない方もいらっしゃると思いますが、大通公園についてはいったんここで。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 石川委員から一言…

○愛甲座長 そうですね、石川さん一言、すみません。お願いします。

○石川委員 国交省石川です。すみません、大通公園の話が終わってきているところでコメントする機会を頂きありがとうございます。

いくつかお話をさせていただきたいと思います。

冒頭の従来からの役割継承強化と新たな可能性の検討のところ、今回公園利用者のピーク時間の変化だとか、利用目的だとか、出させていただいていると思うんですけど、結局この大通公園のリニューアルというのを誰のためにやるのかというところを、もうちょっとターゲットの顔が見える形でデータを揃えた方がいいかなと思っています。今からデータを揃えるというのは難しいと思うので、既存のデータでどういうものがあるかっていうのは幅広く委員に共有した方がいいんじゃないかなと思っています。例えば大通公園の周辺に住んでいる方なのか、電車とかに乗って大通公園まで来て、公園を利用される方なのか、はたまた観光で来られる方なのか、それぞれニーズというのは異なると思うので、どういった利用者の顔を見ながらこのリニューアルの話を考えていくのか、当然誰かのためだけっていうことではないので、それぞれの組み合わせの塩梅というのをどういうバランスでやっていくかということも見据えながら考えていかなきゃいけないんじゃないかなと感じました。

あとスケートボードの話があったと思うんですけど、実際に実証実験をやられて、スケートボードに限らず、プレイスメイキングという文脈でいろんな取組を実験的にやられてたこともあったかと思うので、そのあたりの結果がどうだったかという評価を札幌市さんの方でされているのであれば、それもぜひ共有いただければ、この新たな可能性の議論にとっていいんじゃないかなと思いました。

老朽化で議論に上がっていた樹木のところで、他の委員の先生からもありました通り、伐採となると結構ハードルが高い事例は全国でも目にしますので、市民や住民の方とのコミュニケーションを段階的にしっかり、情報出しながらやるってところが重要だろうなと思いました。

回遊性のところは、国交省の方でもウォークブルという形で、今日の参考資料にも入れていただいていますけど、いろいろ全国各地で取り組み事例があって、まさに大通公園みたいな形態をもつ公園に限らず、公共空間で、その回遊性とか沿道との連携など、いっぱいありますので、それをご覧いただいて、札幌市さんの方でこういうイメージがあって、というものがあれば、そういうイメージも出しながら、委員の皆さんとご議論できるんじゃないかなと思いました。

すみません長くなってしまいました以上です。

○愛甲座長 石川さんどうもすみません。ありがとうございます。

ちょっと議論が足りてなかった部分も含めて補足していただいて大変助かります。

札幌市の方から今の話に対してコメントありますか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 資料で不足な部分もあったと思いますので、次回に向けて補充したいと思います。

○愛甲座長 ありがとうございます。

樹木については私も一つコメントがあって、密度が高いまま、それから老朽化して、大木化したものを放置しておくことによるリスクというのをきちんと示す必要があってですね、それを示したうえで、あと景観的な、これは3番目の課題とも関係ありますが、沿道との連携も含めたうえで、議論ができるような整理をしていただければと思います。

大通公園についてはいったんこれで閉めて、もし今日しゃべり足りなかったことがあればあとから事務局に伝えていただければと思います。

ありがとうございます。

いったんここで5分ほど休憩をとりたいと思いますので、11時半から再開とさせていただきます。

(～～～休憩～～～)

9. 中島公園についての審議

○愛甲座長 それでは委員の皆さん戻られたので、再開したいと思います。

それでは次は中島公園の魅力アッププランの検討について、ということで、資料2の方でまずは説明をお願いいたします。

○事務局（能代係長） みどりの推進課の能代でございます。

私の方から、中島公園魅力アッププランの検討について、ご説明します。

資料はA3横版の資料2、全部で4ページとなっております。

資料のご説明に入る前に、中島公園と大通公園の検討状況の違いということで、簡単にご説明させていただきます。

大通公園は、今年10月に策定した札幌市都心のみどりづくり方針の策定過程において、交通量調査などのデータ収集や、オープンハウスでの市民ニーズの把握を重ねてきました。

一方で、中島公園は、周辺のまちづくりの動向が変化の兆しを見せている公園であり、これから議論を積み重ね、市民ニーズを把握していく段階になります。

今後、より多様な人々の来園が見込まれる中島公園において、札幌市を代表する公園に相応しい魅力を備えるためにどういった取組が必要か、といった視点でご議論いただければと考えております。

では、1ページ目をご覧ください。

1 概要と課題です。公園の変遷ですが、明治20年、国内初の公園制度である太政官布達16号に基づく札幌市初の公園として「中島遊園地」、現在の「中島公園」が設置されました。

明治40年には、東京市嘱託技師で、日本人初のランドスケープデザイナーと言われる長岡安平（やすへい）が、清流や池、藻岩山への眺望を活かし、自然の風致を織り込んだ「池泉回遊式庭園（ちせんかいゆうしきていえん）」として設計しております。

その設計図を掲載しておりますが、現在の中島公園の姿も、この設計図を基調としております。

その後、国内初の公立の児童館である中島児童会館の設置や、2度の博覧会開催、豊平館の移設、子どもの国、Kitara の設置など、時代の要請に沿って様々な変遷をたどってきましたが、札幌市民の貴重な憩いの空間であることは、今も変わっておりません。

右に移りまして、背景ですが、中島公園周辺では定住人口が増加してきており、新MICE 施設やホテル建設が予定されるなど、新たな土地利用転換の機運が高まっております。

また、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、集客・交流機能や芸術・文化機能の強化を図る新たな高次機能交流拠点の形成を目指しております。

課題としましては、周辺にお住まいの方、国内外の観光客など、多くの来園が見込まれる中で、売店などの一部施設の老朽化などに加え、多様な人々のニーズに対応した設えや取組が不十分といったことがあります。

今回のあり方検討では、公園の特徴を生かしつつ、周辺のまちと連携・調和を図り、多様なライフスタイルを支える快適性の高い環境整備を実現するために必要なことについて、検討していきたいと考えております。

2、考慮に入れる主な事柄ですが、歴史性・位置づけ、従来からの役割、周辺のまちづくりの動向、第2次まちづくり戦略ビジョンの位置づけ、公園に求められる社会的要請、の5項目に整理しました。

これらの事柄（ことがら）を踏まえまして、中島公園の魅力アッププランを検討するうえでの、3つの方向性と具体化に向けた検討の視点を「3」で示しております。

方向性1では、今あるみどりや芸術・文化を磨き高めるとしております。これは、豊かなみどりや優れた眺望、芸術・文化が体感できるといった公園の特徴をより生かしていくという方向性です。

方向性2では、新たな機能により魅力を向上するとしており、1の魅力に加えて新たな機能による魅力向上を目指すものとなります。

方向性3では、周辺エリアも含めて活性化させるとしており、方向性の1、2で中島公園の魅力を向上し、加えて周辺のまちと連携することで、その魅力を周囲に広げて回遊性や経済活動の向上を目指すことを意図しております。

検討のスケジュールをご覧ください。

本日の検討会では、方向性1についてご議論いただきますが、大通公園と同様に、方向性1の検討の視点にあります①から③が次のページからのテーマとなっております。

今年度の検討会では、第2回目で方向性2、第3回目で方向性3の検討を行い、来年度も3回の検討会を開催し、中島公園魅力アッププランとしてとりまとめていきたいと考えております。

それでは、2ページ目をご覧ください。

検討の視点1、歴史性や季節ごとの魅力の再確認です。

中島公園の変遷につきましては、1ページ目に詳しく示しましたが、明治初期の札幌開拓の時代に貯木場として利用され、住民要望から公園となり、時代の要請に従って様々な機能を有しながら、歴史性を受け継いできました。

平成の再整備では、公園施設の老朽化や、音楽専門ホールの設置の動き、公園隣接地での道立文学館の整備動向、周辺道路の整備など、様々な要因が重なった中島公園において、再整備コンセプトを「都心の芸術・文化・歴史ゾーンとして、都心部の発展に呼応しながら、歴史・文化・芸術が水と緑の中に重層化する公園」と定め、長岡安平の作庭様式を継承した風景式庭園を作り出し、鴨々川の水景と藻岩山への眺望を活用することを決めました。

それに続く、中島公園再整備基本計画では、【北入口広場】【ボードウォーク】【水草の庭】など、構想に基づいたエリアごとの土地利用に関する方針を定めています。

動線計画では、Kitara へのアクセスや景観の移り変わりを楽しむ公園として、機能的には、大量の移動に対応できるものとしております。

また、日常散策や鑑賞に耐える“水と緑”、“緑と地形”で構成された動線、分節と結節、回遊するポイントになる興味地点などの動景観のシナリオを用意することなどを決めました。

札幌市都心のみどりづくり方針では、主要事業として「中島公園の魅力アップに向けた機能の強化」を位置付けております。

右上の図をご覧ください。

主動線や回遊するポイントとなる分節と結節などを示しており、特徴的な景観や動線について四角いテキストで示しています。

長岡安平による池泉回遊式庭園の設計の契機となった藻岩山への眺望や動線は、図面では、Kitara の上にあるテキスト「水景と緑越しに望む藻岩山へのビスタ」や、細やかに張り巡らされた園路として継承されています。

このように、公園の成り立ちや変遷を踏まえた平成の再整備のコンセプトは、現在でも公園の魅力として活かされています。

次に、季節ごとの魅力の再確認として、写真を掲載しています。

季節ごとに4枚の写真を掲載しておりますが、同じ季節の中でも公園の中は、様々な表情を浮かべています。

また、菖蒲池の水景は、夏、秋、冬に掲載しておりますが、3つの季節のそれぞれの表情の変化や、池を見る位置、視点場による変化が、お分かりになるかと思います。

このように景観要素である「植栽・水景・彫刻・建築物」が季節ごとに変化した姿が、それぞれ掛け合わされることで、植栽・水景・景観が織りなす季節ごとの魅力となっております。

課題をご覧ください。

資料でご覧のとおり、歴史性や季節ごとの魅力がある中島公園ではありますが、その魅力のすべてを伝えきれておらず、認知されていない。

この課題は、例えば、桜の公園としては円山公園、銀杏と言えれば北大を思い浮かべる人が多いといったようなことになります。

次の課題ですが、魅力的なスポットはあるが、込み入った植栽などが立ち寄りにくい雰囲気となり、利用者の集まる場・休息の場に偏りがある。

これは、見る場所によって様々な姿を楽しむことができるように設計されている中島公園の魅力が活かされていないという課題です。

この課題に対する考察として、

再整備のコンセプトを継承する一方で、季節ごとの魅力をより多くの来園者に伝えるために、改善すべきことはなにか。

利用者が公園内を回遊し、たたずむ場を提供することで、より多くの魅力が伝わるのではないか。

の2点を挙げております。

3ページ目をご覧ください。

検討の視点2となります、みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組です。

左側にみどりということで、中島公園の指定管理者である札幌市公園緑化協会の主な取組を掲載しております。

黒ダイヤが自主事業で、キッチンカー事業、野鳥観察会などがあり、昨年実施された「くつろぎVILLEAGE」や、現在実施中の「焼き芋テラス」などのイベントでも構成団体となっております。

この「焼き芋テラス」ですけど、今開催しております、11月5日まで開催しており、紅葉も見ごろを迎えておりますので、委員の皆様、会場の皆様、お時間がありましたら、ぜひ中島公園を訪れてみてください。

資料の説明に戻ります。

白ダイヤが連携事業で、ゆきあかりでは、公園内の多くの施設と連携して事業を実施しており、かもくま祭、ピクニックシアターでの児童会館との連携事業などがあります。

イベントの様子の写真の下に、※で日本庭園を記載しております。

日本庭園は、国指定の重要文化財である八窓庵が設置されている他、滝や松など風情のある庭園がクオリティー高く保たれており、無料で観覧でき、外国人にも人気があります。

一方で、認知度は高くないものと考えており、他の施設と連携するなど、認知度の向上を図ることができる可能性を考えて掲載しております。

右側の芸術・文化では、中島公園の各施設の管理者からヒアリングした、主な取組と連携できる事業アイデアを掲載しております。

豊平館では、料理・工作教室を始めとしたさまざまな取組の他、天文台と連携した豊平館の星、五稜星をたどる宇宙の旅という講座なども行っております。

連携できる事業アイデアとして、ホテルや飲食店などと連携し、貸室・厨房を活用したイベントなどを挙げております。

下に行きまして、文学館では、物販や手作り教室などを実施しており、連携できる事業アイデアとして、地下鉄付近に情報発信ステーション設置など多くのアイデアを挙げております。

その右上ですが、天文台では、星空解説、ゆきあかり、豊平館との連携講座、事業アイデアとして、ソリの貸し出しと天文台見学のセットなどを挙げております。

児童会館・こぐま座では、グッズ販売や、ゆきあかりとタイアップしての野外人形劇などの取組を行っており、連携できる事業アイデアとして、観光客を意識した連携、札幌ならではの遊びを挙げております。

右上になりますが、Kitara では、主な取組として、公演の他、小学校6年生を対象としたファーストコンサート、オルガンと人形劇をコラボしたバースデーコンサートなどの取組を行っております。

連携できる事業アイデアとしては、スタンプラリー、ブランドホテル宿泊と演奏会のパッケージなどを挙げております。

中島体育センターでは、主な取組として公園を使用した歩くスキーやさっぽろ街ラン、連携できる事業として、トレーニング施設としてホテルとの連携などを挙げております。

課題についてですが、各施設がバリエーション豊かな活動を行っているが、連携しての事業は少ないこと

目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ないこと。

連携できる事業アイデアはあるものの、実施できていないこと。

中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していないこと。

右側の点線枠囲みに、この協議会について記載しておりますが、園内の各施設や近隣ホテル等で組織されており、コロナ前までは対面で年 2 回の会議を行っていましたが、現在は連絡会的な存在としてメールでのやり取りを行っております。

この課題に対する考察として、

来園者が利用目的の施設を訪れる機会を捉えて、公園のみどりや他の施設にも興味を持ってもらえるような連携した事業を実施することで、公園全体の魅力を感じてもらうきっかけとなるのではないかと。

連携した事業を実施するにあたっては、計画・実施・検証・改善まで行う体制が必要ではないかと。また、その体制をどう構築するか。

見どころを伝えるインフォメーション機能や、管理事務所にパークセンター機能を持たせることが必要ではないかと。

これらについて、ご意見をお伺いしたいと考えております。

なお、右側の緑の囲みでは、他公園の事例として、青森県むつ市の金谷公園で、周辺施設の関係者が、デジタルコミュニケーションツール（スラック）を活用して、イベントでの連携や協力依頼など、適宜情報発信することで、公園の活性化に繋げている事例として掲載しております。

4 ページ目をご覧ください。

検討の視点 3、日常的な利用環境の充実と情報発信です。

左上の写真は、日常利用される公園内の主な施設を掲載しており、ベンチやシェルターなどそれぞれの配置図を中央に掲載しております。

図を見ますと、ベンチは、体育センターの西側、図面でいうと体育センターの上、自由広場に、32 基もあります。一方で、体育センターと文学館の間の芝生広場には 1 基もないなど、配置に偏りが見られます。

トイレは 7 か所あり、すべて身障者対応となっております。また、冬は北側入口と中央の自由広場のトイレを開放しております。

水のみ台は 6 か所ありますが、北西にある豊平館付近にはありません。

次に、下の写真をご覧ください。

回遊環境を左右する要素となる主なものを掲載しております。

飲食環境や園路灯、樹木の状況の写真などを掲載しています。

樹木の写真は、菖蒲池の南側の張り巡らされた散策路沿いの樹木と、池沿いを撮影した写真です。樹木の過密化、大径化によって見通しが悪い状態が確認できます。

公園の日常利用からみた課題についてですが、

ベンチの配置に偏りがあることや水飲み台やテーブルが不足していること

樹木の過密化・大径化によって見通しが悪いこと

散策路の利用が少ない、場所もわかりづらいこと

みどりの季節ごとの美しさが伝わるライトアップがされていないこと。これは、園内の照明は、高、低、2 種類の照明灯を使用しており、移動に支障がある暗さではありません

が、桜や紅葉などが見られるようなライトアップは行われておらず、思わず足を止めるといったものにはなっていない、というようなことです。

遊戯施設・飲食施設の魅力不足。こちらについては、新たな機能の検討ということで、第2回の検討内容とします。

これらの課題に対する考察として、

利用者の居心地が良い空間・滞留したくなる空間の設えとはどのようなものか

散歩や休憩などの日常利用者が求めていることは何か

公園全体を回遊し、魅力を体感してもらうためにどのようなことが必要か

最後は、視点1の考察と同様ですが、利用者が公園内を回遊し、たたずむ場を提供することで、より多くの魅力が伝わるのではないかと

以上、4点あげておりますが、日常的な利用環境・回遊環境を充実させることで利用者の満足度を向上させていきたいと考えておりますので、今ある中島公園の魅力をより実感してもらえそうな方策について、ご意見をいただければと思います。

なお、事例は、日常的な利用環境の一つの参考として、チェアリング、貸出椅子の様子を載せております。

最後に右側に情報発信とありますが、こちらは、実際のホームページの内容をご紹介しますながら進めたいと思いますので、スクリーンをご覧ください。

<ホームページみせる>

こちらが中島公園の指定管理者のホームページでございまして、指定管理者の方で情報を追加しているというものでございます。こちらのホームページですとか、公園リーフレットの配布、そして、参考資料としてみなさまにお配りしています三十三選のリーフレット。こういったもので指定管理者の方で情報発信しているところでございます。

お知らせのページでは、月に数回、公園の様子を撮影してこのように皆様にご紹介しております。

<お知らせ見せる>

続きまして、施設の紹介はどこでしているかということ、園内の名所ということで、こちらのページで写真とそれぞれの簡単な概要が載っております。

<園内の名所見せる>

皆様にお配りしている三十三選もホームページ上ではこのように載せているというところでございます。こちらは皆様にお配りしているものと同じものです。

<三十三選リーフレット見せる>

こちらの三十三選、中島公園および周辺の各施設ですとか、石碑だとかいろんなものが掲載されています。

続きまして「SAPPORO ぶらり手帖」というものがございまして、こちらは観光関連事業者によるワークショップ「サッポロコンシェルジュ」により作成されたものでございます。こちらの中島公園界限編では、公園内外の施設や周辺の飲食施設などが紹介されています。

<SAPPORO ぶらり手帖見せる>

例えばこういった近くのお店が紹介されていたり、その場所もクリックすると地図とかが出てくる、というような紹介がされています。

次に、市民や事業者からの情報発信として、中島公園パーフェクトガイド、略して「中島パフェ」のサイトは、中島公園と周辺地域の情報サイトとして2003年の3月から、個人が運営して情報発信しているサイトです。

サイトとしての更新は、20年目を迎えた今年3月で終了しましたが、3月以降もブログ形式での写真と文章につきましてはタイムリーに更新されておりまして、日々の公園の様子を知ることができます。

こちら20年間の写真がずっと、沢山掲載して頂いているというもので、非常に素晴らしいものなんですけども、こういった公園の歴史ですとか、そういったものについてはいろいろ掲載しておりまして、まさにデジタルアーカイブとしての価値も非常に高いものであると考えています。

<30秒くらい見せる>

こういった写真ですとか、公園の歴史、それから鳥や動物の情報、各施設の詳しい状況も全て掲載されているサイトになっておりまして、パーフェクトガイドの名に相応しいサイトとなっていると感じています。

次に他の公園での情報発信の事例ということでご紹介させていただきます。

こちら東京都の上野公園のサイトになります。こちらの公式サイトでは、園内の文化施設や飲食施設の紹介が充実しておりまして、また、公園紹介 VR で360° 動画紹介というものもございまして、素晴らしい紹介動画が掲載されています。

<VR360° 見せる>

こういった地図で、今どこにいて、どういう場面ですよというのをわかりやすく紹介しているというものになります。

続きまして、東京都豊島区池袋に位置する「としまみどりの防災公園」通称イケ・サンパークです。こちらではホームページに加え、Instagram、Facebook、X(旧 Twitter)で、高頻度での情報発信を行っています。

<X(旧 Twitter)見せる>

こちらが X、旧 Twitter ですが、週末のイベント情報などが、ほぼ毎日のように更新されております。

このように、現在公園の情報発信は様々な形でいろんなところで工夫して行われています。

それでは、資料の方にお戻りいただきたいんですけども、中島公園の現在の情報発信の課題というところですが、指定管理者による SNS での情報発信というのはあまり多くない状況、それから公園全体を網羅した情報発信がない状況、それから来園者に対してタイムリーな情報発信・情報提供できる仕組みとなっていない、ことなどがあげられます。

これに対する考察ですが、市民や観光客が行きたいと思う情報発信とはどのようなものか。みどりと各施設をつなぐ、もしくは一体的な情報提供をどのように行うか。来園者への効果的な情報発信にはどういったものがあるか。

最後ですが、来園者が中島公園の魅力を感じて、自ら SNS を発信してもらうことが情報発信において、効果的と考えられますので、その発信するきっかけをつくるために必要なことは何か。

以上が資料の説明となりますが、委員の皆様には、3つの視点での課題や考察を踏まえ、今あるみどりと芸術文化を活かしながら、中島公園の魅力を向上していくために必要なこと、につきましてご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○愛甲座長 ありがとうございます。

それでは、中島公園の今ある魅力について、3つの視点ということで、「歴史性や季節ごとの魅力の再確認」「みどりと芸術文化が相乗効果を生む取り組み」「日常的な利用環境の充実と情報発信」という3つの視点について、お話を皆さんに伺ったり、ご質問があれば聞いていきたいと思ひます。

これもそれぞれ3つ分けていると、大分時間をとってしまいそうなので、この3つの視点を頭に置いといた上で、それぞれご質問やご意見があればご自由にご発言頂ければと思ひます。ぜひお願いたします。

玉田さんお願いたします。

○玉田委員 まず前提条件といひますか、そこを確認させていただきたいと思ひたのですが、課題とか方向性について、大通の方はかなり老朽化で、課題として維持管理費といひのが言われていたと思ひんですけど、こちらも一部老朽化といひることがございましたが、維持管理費の不足とかそういうところの課題といひのはそれほどではないといひますか、対応できているのでこちらでは課題や方向性としてはあげていないといひことでしょうか。

○事務局（小松みどりの推進課長） 大通公園と比べまして、中島公園では老朽化が利用に対して、さほど進行していないと認識しておりますので、ご指摘の通り、維持管理費に関しては公園全体として不足があるとか、別の課題はありますけども、中島公園の在り方を検討するうえで、老朽化といひる観点はあまり重視しなくていいのかなと思ひています。

○愛甲座長 ほかにいかがでしょう

高野先生お願いたします。

○高野委員 情報発信といひるところで、情報発信は専門分野ではないので素人的な発想なんですけど、今もお話しいたひいて、HPだとか今日の資料の写真なども、ものすごくたくさんきれいな風景がいっぱいあるといひことは間違いなくて、全部網羅していると思ひんですけど、じゃあその the 中島公園といひるのはどれなんですか。

要はその写真を撮ったりして、神戸なんて港に行くと BEKOBE という文字があるじゃないですか。それをみんな必ず写真撮りますよね。

あの広い公園の中で必ずあそこに行って、またそこからそれぞれ目的を持ってどっかに行くという感じになる中で、the 中島公園をどこかにやはりつくった方がいいんじゃないかというか、長い長い歴史の中で、いっぱいいろんな施設があって、中島公園を訪れるとその人の利用目的に合わせていろんな施設があったり、季節ごとにいいルートがあるというのは疑いようが無いんですけど、ここぞというのをなにか作って、それを集中的に PR して、とにかくそれをめがけてみんな一回は来てもらおう。

来てもらったら、今度はそこでいろんな情報発信すれば回ってもらえるとか、その良さを見てもらえるということがあると思うので、特にやはり旅行者的にはそういう the 中島公園という部分をぜひつくっていくっていう発想を。

なんかあるんですかね、もうすでにここからの景色が中島公園だぞとか。もしないのであればそういうものを積極的につくっていくのがすごく重要なかなと思いました。

○事務局（小松みどりの推進課長） 確かにここが象徴的というところはないのかなと思いますけども、資料2の2ページ目の菖蒲池から藻岩山を望む風景というのは、中島公園においてはすごく代表的な風景の一つなのかなと考えているところです。

写真の5番目ですね。ここが、季節を通じて様々な表情を見せる代表的な空間なのかなと思いますけど、先ほど大通公園のところ、入澤委員からご意見ございました通り、各丁目ごとに象徴的な空間とか、そういうものは中島公園には今、ここっていうところはないのかなと思っています。大通ですと札幌スマイルを入れつつテレビ塔を映すという写真が撮れたりしますが、ご指摘のような、象徴的な写真のスポットを整備していくのも、確かに発信の上では非常に大事なことかなと思いました。

○愛甲座長 個人的な意見を言うと、池と川というのは、札幌の都心部にある公園の中で、象徴的にこういう大きい水のある風景というのがなかったり、都心部の中に昔はいっぱい流れていた川の痕跡がほとんどなくなってしまった中で、街の中を流れる鴨々川がこのように存在しているというのは、非常に重要な景観的なポイントだと思ってて、何もないっていうのは、札幌市の人がそれを言うのは残念だなと実は正直今思っていました。

池ノ上先生お願いします。

○池ノ上委員 すみません、途中退席しないといけないので、先にお話させていただきます。

私も論点ってどこなんだろうと思って考えていました。

一つはデスティネーションマネジメントが課題なのかなと思っています。デスティネーションマネジメントって観光の分野では DMO とかって言われたりしますが、元々は目的地としてどうマネジメントしていくかということなので、市民や地域住民も含めて、どうやって目的化しているのかというのが中島公園の課題なのかなと思っています。

そういう意味で言うと、先ほど上野公園の事例も出していただきましたけども、じゃあ中島公園に行こうと思って行っている人がどれくらいいるかということと、いろんな、資料2の3ページ目にあるような、コンテンツはたくさんあると思うんですね。それぞれのコンテンツも重要なので、私も豊平館は関わらせていただいているんですが、やはりそ

れはあくまでもサブであって、もちろん豊平館に行きたいから、あの場所に行っているいろんなことに気づく、という行動パターンがあってもいいと思うんですが、やはり、私が東京に行ったとき、上野公園に行って、上野公園でたまたま国立博物館とか美術館とか、こんな展示会、特別展をやっていると、というので入るというパターンの方が多かったかなと思うんですね。そういう意味で言うと、公園が持つブランド力をどう上げていくのかという戦略が重要かなと思っています。

それをサブコンテンツだけに頼るのか、あるいは八窓庵もそうですが、とても立派な全国レベルで通用するような公園としての価値もあると思いますので、その辺をどう位置付けていこうかというところと、サブコンテンツの横の連携みたいな話も出して頂いていましたけど、実際それが現実的にどれくらいできるかがマネジメントの課題で、私も指定管理の選定も含めて、10年くらい関わらせてきていただいている、なかなかそうならないというところが、現実の路線から見ると思っています。

だけど、豊平館が順調に言っているかというところと決してそんなことはなくて、毎回指定管理の選定委員会の時も常に短したすきに長しみたいところで、選定しないといけないので選定するが、積極的にここのプロポーザル良かったなという状況ではないんですね。

実際のその運営の実績とかを見せて頂いても、なかなかイメージしているところと違うとか、他の施設との連携のことも仕様の中には入っていて、報告書に上がるとリストとしては出てくるんですけど、ここに書かれているように、そもそも相乗効果を生み出す取り組みになっているのかとか、公園としてのブランディングに帰するような取り組みになっているのかというところと決してそうではない。

というところがあるので、やはり公園である限りは、公園としてどうブランディングしていくのかという、一番メインの部分、なにをしたらいいのかというのはしっかり考えていくと良いのかなと思っています。

すみません、答えがないのに、ざっくりとした話で申し訳ないです。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 先にさっきの質問の愛甲先生の指摘ですけど、僕も何度か見に行きますけど、どの場面でもどこにいてもすごい魅力的で、どこも the 中島公園なんだと思うんですけど、とりたてて、ここ定番というのがないという趣旨かなと思います。

それから今のご質問ですけど、池ノ上先生からサブコンテンツということなんですけど、今中島公園、平成の再整備構想の中で、都市の芸術文化歴史ゾーンということで、単純に池泉回遊式公園に、芸術文化の色を付けたというところなんです。

これは Kitara の整備を筆頭に、資料3ページで各施設がある、これらがそれぞれ許認可だったり隣の敷地だったり、いろいろ事情は違うんですけど、その芸術文化を構成している要素になっているんですね。

なので僕もわからないんですけど、中島公園の魅力を発信するのが、公園としての土台の部分としての太いところなのか、その上に点在している、点在と言っても大小いろいろあ

りますけども、これらのコンテンツでの色付けの部分なのかというところを、どちらを主張していくべきなのかというのがわからないところではあります。

○池ノ上委員 そうですね、私もそこを悩むので答えのないまま話をしているんですけど、さらに MICE の施設みたいな話も出てきていて、いろんな事情に左右されている公園という意味では大通公園に負けなくらい大変な場所だなと思います。

でもやっぱり公園として、池泉回遊式庭園というものがあつたからこそ、そういう拠点施設の整備ができるんだと思いますし、先ほど大通の時に申し上げたように、観光そのものや MICE もそうですが、そもそも特別なものをつくりつけた、とそんなパビリオンにはいきたくないですし、そんなことを求めて MICE は開催されないの、むしろ札幌の市民が大切にしている、誇りに思っている公園だからこそ、それをどう楽しんでもらうか、という観点で戦略をつくっていった方が私は良いのかなと思っています。

○愛甲座長 ありがとうございます。

○小篠委員 今部長の悩みも聞きましたけど、私はここまで様々な主体が建物を公園の中に建てて、そういうものを存在しているという場所であるならば、公園と施設と一体的に運営しないとだめだろうと思います。

それぞれの施設、道立の施設もあるし、そういう意味では非常に持っている方がいろいろなんですけど、その施設を維持管理しよう、運営しようということで、指定管理を立てて、結局その指定管理の範囲は、その施設だけにどうしてもとどまるので、施設間の連携はどうしても取れないですよ。

ですがそれをやるためには、もうひとつ全体の施設にも絡むし、公園にもからんでいるというような運営というのを。

考えられるのは、これがうまくいってればもっとよかったなと思うのが、中島公園地域コミュニティ推進協議会なんですけど、この推進協議会というのは、ただ単純に情報共有しようというくらいの集まりではだめで、それが中島公園一丸となって、今年の秋はこういうイベントを打つぞみたいな感じで、展覧会やったり八窓庵の一般公開やったり、そういうのを立て続けにやるみたいな、全体として何やっているのというような形でイベントを集中的にやるみたいな、そういうことを考えられるようなマネジメント組織をつくらないといけないかなと思います。

上野恩賜公園の話が出ましたけども、上野恩賜公園って、自分が見たい展覧会とかがあつて、そこに行くんだけど、その横でこんなものもやってたんだねとか、こんなものもやっているのね、というのが垣間見えるわけですよ。

それでじゃあまた来週今度はこっち来ようとか、とあって、あるいは期間中にまた来ようかという風にして、ああいう同時多発性が、一個一個の施設のパワーが違うっちゃ違うんですけども、それがすごく来場者を増やしているというか、予測していなかったことが起きているわけですよ、来ると。

だけど中島公園って多分ほとんど、わかっていることをただ見に行くということが多くなっちゃっているんで、リピーターとか数の問題というのが出てくるんじゃないかなと思います。

公園の面白さというのは、予測していなかったことに会うことなんじゃないかと思っていて、それが起きるかどうかなんていうのは、全体をマネジメントする組織があるかどうかということにつながるのかなと思います。

マネジメントの話は一つ。

それからもうひとつはですね、ハードの話があって、中島公園からの藻岩山の景観の維持保全というのをちゃんとやっておかないといけないんじゃないかと。

今の建築基準法あるいは都市計画法でそれが本当に維持できる、というところはちゃんと担保を取っておかないといけなくて、公園の中だけの話でできませんから、南側の既成市街地のところをどういう風に管理するのかということはどうしても必要だろうと。

それから南9条のところやっぱりボトルネックになっているというか、そこにパークホテルのところで MICE の整備を行うとなると一番市街地と言いますか、駅、繁華街の方から入っていくところの玄関口というのをどういう風に整備していくのかというのは、民間事業者側の敷地も含めて一体となったマスタープランなりなんなりがどうしても必要で、そのところはやはり重要なポイントなんじゃないかなと、この3点お話でした。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 南9条側の中島公園駅からの入り口の部分って、多分中島公園の一番ポテンシャルの高い部分で、しかもボトルネックで飛び出ているところなので、ここをどうするかっていうのは多分ハードプランとしてはすごく出てくるころですね。

今回建付けは魅力アッププランというソフトに傾注していますが、周辺の開発とか、MICE とかが動いてきたときにここの関係性はすごい問われるところなので、場合によっては児童会館とか子どもの遊具とかのあるエリアもありますけど、他部局が絡むので軽々には言えませんけども、ここのゾーニングをどうするかは課題だと思っています。これは今後考えていきたいと思っています。

○愛甲座長 ありがとうございます。

入澤さんさっき手上げてました。すみません。

○入澤委員 去年ですかね、ポケモンゴロのイベントを中島公園でやられていて、非常にいいイベントだなと思って、世界中の人が中島公園に来て、デジタルを使って、ARでああいう観光をやるのはすごくいいなと。ああいうイベントをぜひどんどん誘致できるようなことをすると面白いなと思っています。情報発信という観点ですごい促進もされますし、日々の情報発信に関しては、指定管理者側でそれをやっていないというのが課題だったんですけど、それはやらせればいいだけの話なんじゃないかなという気がしますし。あとはライブカメラなんか、私もこの間たまたまパークホテルの一番上の方から中島公園初めて見たんですけど、こんなきれいなんだと実感しましたので、あの風景をぜひライブカメラなんかであげるといいのかなと思いました。

あと一個人として思うのは、芸術文化ときて、スポーツという観点はないのかなと思いました。こちらの冊子（札幌のまちとともに歩んだ公園）の26ページを見ると、中島体育センターは耐用年数に達した後みどりの空間とすることとしています。まあこれは壊すということなんだと思うんですけど、私はよく中島公園には子どもを連れてテニスに行ったりとか、ジョギングしている人達は観光客の方もとても多くいらっしゃると思います。

ですからそういうジョギングがしやすい動線を考えられたりとか、あとは中島体育センターは、私プロレスが大好きで別館でプロレスなんかもあった時期はありましたけど、このエリアをただみどりの空間にするというのは非常にもったいないなと思ってまして、ここにきて今また札幌ドームにアリーナをつくるという話も出てますので、ぜひここに中島体育センターの別館を復活させて、アリーナをここに持ってくることで、人がもっと来る、一つのランドマークになって、中島公園の活性化がされるんじゃないかと一個人としては思うところがございます。

以上でございます。

○愛甲座長 ありがとうございます。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 中島体育センターの問題は、まだ施設として耐用年数があるので、当面はそのままです。

ただ、芸術文化ということで位置付けていますので、どこまでその概念を広げていくかということはあるんですけど、スポーツという考えで行くと、体育センターのスポーツという意味とは別に、外国の方々は朝宿泊施設の周りを走ったりとか、そういうことも多いということですので、非常に入り組んだ動線の公園なのでそれでよいのかはよく分かりませんが、景色を楽しみながら朝食前に走れる、そういうウェルネスというポテンシャルは持っていますので、そういう要素はあると思っています。

○愛甲座長 ありがとうございます。笠さんお願いします。

○笠委員 私も中島とは長い付き合いなんですけど、ページ2の図面で言いますと、今の体育センターそれから謎の駐車場、それから伊夜日子神社、それから管理事務所、このエリアというのは本当に普段から人がいないんですね。

それから、ここに今中島体育センターの下に博物館が来るという話が去年新聞にも出ましたけども、そういう施設絡みが落ち着かないとどうするかというのはなかなか決められないまま来てるんじゃないかというのがあるんですけど、この中にも話題になっているんですけど、ここにパークセンターがないというのが非常にもったいない。

管理事務所がパークセンター的に受付もあるんですけど、ここが管理事務所だと知っている人がほとんどいないんですね。

ここに中島公園三十三選パンフレットも置いているんですけど、誰も取りに来ない。

非常にもったいないので、パークセンターはやっぱり一番メインの入口に置くのが本来なわけですから、この図面で言えば南9条の北入口広場、このトイレの裏とか、ここあたりに、ここにこそやっぱり、MICEの方と連携するかどうかは別としても、最低限公園のパークセンターというのはここに置くべきだろうなというのはずっと思っていました。

そこで案内機能というのを強化すれば、ある程度園内の様子が非常にわかりやすくなる。そうなるとやっぱりこの管理事務所の部分と、体育センター、まあ博物館来るかどうか、そのあたりの再整備は絶対必要なんですね。

この普段イベントの時しか使わない駐車場が、舗装があるとか、非常にここも設えが良く分からない状態のまま来てるんですから、その辺の建物、管理事務所の移動も含めて、ここの再整備というのはやっぱり道筋をつけとかなないといけないのかなというのはずっと思っていました。

みどりについては、記念植樹とかでめっちゃくちゃ木を植えた経緯があるんですけど、昔は苗木を植えているわけですけど、それがそのままの本数で大きくなっているわけですから、当然間引きをしないといけないわけで、思い切ってやった方が良いと思います。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 博物館構想だとか、新MICE施設だとか、非常に公園と関連性の強い施設整備構想が、いろいろ札幌市の中でもなかなか見えない中で、バランス悪いんですけども、冒頭資料説明でもありましたように、今この時期考えなきゃならない魅力アップについては、公園からのアプローチだと思いますので、仮置きとなることも多いですが、そういうところから考えていきたいなと思っています。

パークセンターは、実は先日議会答弁の別の公園の関係で、私も同様の言葉で答弁したんですけど、従来の公園の維持管理施設としての公園管理事務所という考え方よりも、市民のためにいろんなサービスを提供するという、まさにパークセンターとしてのセンター施設というのは一番いい場所に、市民にとって使いやすい場所にあったほうがいいのかなというのは、他の公園の関係で答弁しておりますので、中島公園もまだ再整備のフェーズではないですけども、当然そういう考え方もあるべきかなと思います。

○愛甲座長 先週、環境審議会でも生物多様性札幌ビジョンの改定を今やっているんですけど、その議論があった時にも、自然史系の博物館が札幌にはなくて、情報発信とか市民への生物多様性関係の情報の共有とかというときに、準備室はあるけどなかなか博物館にはなっていないという意味で弱いという話になりました。

私がお話したのは、パークセンターともう少し連携したらどうだろうという話をして、例えば西岡公園とか円山公園のパークセンターは、いろいろ経緯もあってですけど、地域の団体と協力して自然史系の情報をかなり集めていて、情報発信という意味でも非常に大きな役目を果たしていらっしゃる場所があるので、中島公園もそういう意味では、自然観察系の人結構訪れるので、スポーツもそうですけど、野鳥観察とか、写真撮影とかでも訪れる人は多い場所なので、そういうポテンシャルもあるし、そういう可能性も探らないといけない場所かなと思っています。

他にいかがでしょう。吉岡先生お願いします。

○吉岡委員 それではいくつかお伝えしますが、こちらの対象は、市民の人により親んでもらいたいというイメージで考えていきたいなと思っているんですね。

観光客とか企業とコラボして収益を上げるとかというところで、中島公園を位置付けてほしくないなという思いもあるんです。

より市民の人に親んでもらうことを考えた時に、たまたまゼミの学生に中島公園に行くことありますかと聞いたら大学生はほとんど行ったことがない。

お祭りの時くらいという答えが返ってきて、ああ、そうかという。

確かにこちらの四季のきれいさは、知っている人にとっては本当に疑いのないものでよく足を運んでいると思うんですけど、本当に一部の人になっているという問題意識はもっています。

それでもしこちらの公園を市民の人により親んでもらいたいということであれば、Kitara にしても道立文学館にしても、その目的にイベントの時に行くという人はいると思うんですけど、日常使いということになると、こういう形の施設に行くとなると、日常にはならないので、もっと市民の人が日常的に足を運ぶようななにか必要だなと思って、そこで私は子育て教育が専門ですので、こぐま座、日本国内では最初にできた公立の人形劇場ですけど、ここは市民のボランティアさんがたくさん子どもたちのために人形劇を提供しているんですよ。

この敷地内ではないんですけどすぐ横に、市民の演劇のための劇場みたいなものがありますよね。

そのようななにか市民が発信するというような、市民が活動するような場としての可能性というのも少し考えてみていってはどうかと思います。

先ほど博物館ですとか、新しい施設の構想もあるようですが、それもなにか芸術の専門家が提供する、そういう博物館関連の専門家が提供するということも大事ですけど、市民の人たちがもう少し自分たちで活動する、そういうような場所になって欲しいと思います。

今札幌市は北口に L・Plaza という施設があって、そこで市民の方たちが色々活動して学習会などを開いているんですけど、全然足りていないんですよ。

週末なんか予約できなくて、私も市民団体の事務局長をやっているんですけど、交流会を開こうと思っても週末は予約できないんですよ。

それで、明日明後日なんですけど、豊平館の会場を借りて開くことになって、そういう利用の仕方もあるんだなということも、市民の方もそんなに定着してないと思います。

もし可能だったら、そういった方向で、市民の方がもっと親しめる、例えば公民館でもよいと思うんですけどね。

あるいは今更大きな建物を札幌市が建てるとはならないと思いますけども、これだけの規模の街として中央図書館のあの状況は驚かれます。

すごくアクセスも悪いし、規模としてもどうなんだろう。もう少し都心に近いところに整備する必要があるんじゃないかなと私は問題意識を持っているんです。

例えば中島公園も可能性としてはあるのかなと思います。

あとはより市民の方を年代広くとらえるとしたら、こぐま座はありますし、児童会館もありますので、小学生くらいまでは親しめると思うんですけど、中高生となるとなかなか

中島公園とつながりにくいなと思いますので、ヤングアダルト世代に向けたアプローチというのも一つ視点に加えていってはいかがかなと思います。

以上です。

○愛甲座長 ありがとうございます。

いろいろ多様の視点から捉えて、市民がより足を運べるようにというのはまだまだ議論の余地がありそうだと思います。

他にいかがでしょうか。

椎野先生お願いします。

○椎野委員 大通公園の最後のところで、石川委員からご発言があったと思うんですけど、ターゲットを誰にするかは一番大事なところかなと思ってまして、私も中島公園は市民利用の方がニーズは高く、みどりの空間を散策したり、鑑賞したりする空間だと思っていたんですけど、資料の4ページの考察だと、市民や観光客を情報発信のターゲットとして挙げているので、両方という想定なのかなと思いました。

一方で観光地みたいな、観光資源としてツアーが組まれるようなところとは性質はちょっと違うと思っていて、どちらかというところ、個人旅行で訪れるような場所として情報発信していったら良いと思っています。

コロナが五類移行して円安ということもあって、海外からの旅行に来られる方も増えていますが、主要ないわゆる観光地と呼ばれるところじゃなくて、盛岡市の外国人来訪者が増えていると言われてます。

その理由としては、ニューヨークタイムズで、「今年行くべき世界の旅行先」の2位に盛岡市が選ばれ、それを見た人たちが、行ってみようかということで訪れていると聞いています。

申し上げたいのは、盛岡市は、記事にどこまで書かれていたかはちゃんと見ていないんですけど、盛岡市って中心部に結構大きい道路の整備計画が持ち上がって、その時に古い街並みを残すような建物とか、いわゆる地域の方が大事にしてきた景観があって、それを守ろうという市民運動が行われた。

結局その街並みが保全されたというストーリーがあって、そういうところに、ニューヨークタイムズの記者の人が共感して、行くべきだという記事を書かれたんじゃないかと思っています。

申し上げたいのは、そういう中島公園ならではのストーリーというか、それをよく理解している人に、なにか記事を書いてもらうとか SNS で発信してもらうとか、そういう形で、そのくらいの価値はあると思うので、世界にむけて中島公園の価値を発信するというところも必要なのかなと思ってたほうがいいと思います。

それでいうと、先ほど来出ております、鴨々中島と言いますか、鴨々川。

大通公園の横のところに以前豊平館があって、胆振川でしたっけ、豊平川の支流が残っていて、それが豊平館の庭園の一部としてデザインに組み込まれていたものが、今豊平館が移築されてしまって、そういう支流も埋め立てで無くなってしまって、という状況の中

で、現在までも当時の札幌の水路、河川とか池を現代に伝える貴重なものだと思いますので、そういうストーリーを発信していくのが良いと思います。

そういう発信の仕方がいいのかなと思ってます。

それで言うと専修短大の小林先生は結構札幌の公園の歴史で論文を書かれていて、中島公園の紹介もされているものもありますので、先週学会でいらしたんですけど、彼が造園学会で投稿された論文とかも参考になるかもしれないです。

○愛甲座長 ありがとうございます。他にはいかがでしょう。森先生どうぞ。

○森委員 森です。中島公園との付き合いは浅いんですけど、多分一番密度は濃いと思います。

ここの公園を使っておられる市民の皆さんのマナーがものすごく素晴らしいと思います。

犬の散歩を朝されているんですけど、公園の中にフンが落ちているのを一度も見たことがありません。

そういうのが、やはりすごくこの都市を訪れて、外から来た方が感心するところであって、高野先生のご発言にという訳では無いんですけど、なにか象徴的なものを作って発信して行って、宣伝することだけが、この公園にとって良いとは私は考えておりません。

いろいろと施設がこの中に入ってきて、体育センターですとかテニスコートですとか、かなり施設があるんですけど、全部お尻を向けているというのは、改善があるかなと思っております。

ここのフィジカルのプランニングの中で改善できることはたくさんあるとは思いますが、何か大きく方針を転換してやっていくという考え方は個人的には反対です。

長岡安平さん一枚目にありますけども、これと現状の池の感じや道の感じはかなり継承されていて、こういったことはすごく財産であるのではないかなと思いますので、もちろん課題はあると思うんですけど、大きく方針転換するのではなく、地道にできること、そして市民に愛されることを目標に話し合いをしていきたいなと個人的には思っております。

○愛甲座長 今公園に対してお尻を向けているという話がありましたが、私もすごくそれは常日頃考えていることで、これはお願いといいますか、私の意見も入れますと、いろんな施設が入っていて、市民は別にそれが中島公園なのか、その中の施設は誰が管理しているのかというのは気にせず利用しているわけですね。

ただ実際に行ってみると、公園は開いていて入れるけども、ここのトイレは入れないとか建物は閉まっているとかがあって、その辺のアクセシビリティですね。

車いすのこと、日常利用する市民のこと、早朝から走られる方もいらっしゃる。

トイレとか、飲食とか、立ち寄りとかも含めて、周辺施設も含めてどういう状況になっているのかを一回整理してみた方が良いかなと。

それぞれ管理状況が違うので、やりにくいかもしれませんが、伊夜日子神社も入れた方が良いと思います。

ここは実際には細道があって公園側からも入れますので。私は実は良く行くんですけど。

その辺を整理された方が、実際に公園を利用されている方、市民がここを訪れた時にどういう過ごし方ができるかというのに結構その辺の情報は影響するんじゃないかなと思いますので、そういう整理もしていただけると、今森先生がおっしゃったことももう少し議論できるんじゃないかなと思います。

なかなか不確定な要素もあって、MICE の話とか、難しいところもあるとは思いますが、皆さんの話を聞いていると、そんなに大きく何かを変えるというような意見ではなく、逆になにかもっと魅力を引き出せるようなものを付け加えたり、ちょっとした情報発信を工夫したりしていくことで、十分ポテンシャルは非常に高いんじゃないか、というご意見だったと思いますので、引き続きまた次回以降も議論させていただければと思います。

石川さん、中島公園についてコメントお願いできますでしょうか。

○石川委員 国交省石川でございます。ありがとうございます。

今後の心配ではないんですけど、最終的に来年度、中島公園魅力アッププランとしてまとめられるということだと思うんですけど、もしかしたら次回の議論でかなりやることが出てくるのかもしれないとも思っているんですけど、今日の議論を聞いていると、この検討会の議論だけで、アクションプランとして書ける物がどれだけでてくるかなというのがちょっと気になりました。

情報発信の話も、指定管理者さんとの業務の関係もあるでしょうし、周辺エリアの活性化みたいな話も札幌市さん以外の主体の方との調整もあると思うので、そのあたり今後どう考えてやられるのかというのが、次回以降お考えがあれば教えていただきたいなと思いました。

私中島公園に足を運んだことがなくて申し訳ないんですけど、事前にいただいた資料を拝見すると、すでになんかいい公園だなという印象を受けたのが正直なところなので、他の委員からもありましたが、大きく何か派手なことをやるというよりも、粛々とこれまでの歴史とか良さを引き継いでいけるように、ちょっと手を入れるくらいなのかなという印象を感じていました。

以上です。ありがとうございます。

○愛甲座長 ありがとうございます。

今頂いたお話で言うと、いろんなところとの調整が必要になってくるので、その辺も含めて、魅力アッププランを作っていくときに調整していくのかどうかというお話だったんじゃないかと思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

○事務局（高橋みどりの推進部長） 魅力アッププランをまとめるということは決めているんですけど、この皆様の議論の中でそのすべてのことを論じていただく時間の余裕もないと思うので、かなりエッセンスとしての各皆様の意見をどう受け止めて咀嚼して表現するかというのは、我々事務局の作業になってくると思います。

またその中で、今やれることとか、中長期的なこととか、関係機関との協議の中で持続的に進めていくこととか、フレームとか建付けを整理しながら魅力アッププランを構成していきたいなとは思っています。

まずは今年度の3回、それぞれのテーマで、ご意見を頂戴して、どうまとめるか我々も工夫していきたいと思えます。以上です。

○愛甲座長 ありがとうございます。

石川さんどうもありがとうございました。

今の話でこのコミュニティ推進協議会とはどういうものなのか、例えば今これを行っていること自体を、魅力アッププランを作る検討をこの検討会の中でやっていること自体は、協議会の構成員に伝えたりとか、そこでこういう資料を共有して、ご意見を頂いたりする機会というのは予定されていたりするのでしょうか。

そこでのコミュニケーションというのは。

○事務局（能代係長） 情報提供といたしましては、各施設の皆様だとか、管理者様の方についてはですね、これからの内容等につきましては情報提供させていただいて、連携についてもヒアリングもさせていただいておりますので、今後一緒にやっていくことについては、いろいろ検討して参りたいなと考えております。

○愛甲座長 ありがとうございます。そのやりとりの中で、そちらから上がってくるご意見等もここでも共有していただくというようなことがあると、議論が活性化するんじゃないかと思えますので、ぜひその辺よろしく願いいたします。

他にいかがでしょうか。玉田さん。

○玉田委員 一言だけ意見を言わせていただきたいと思うのですが、みどり芸術文化施設の充実さはすごい場所なのかなと感じております。それから季節ごとの景観も素晴らしい資源だなと思っております。

是非これから検討する中で、景観というお話もありましたので、ここの観点を是非大事にしていきたいと思えます。

というのはやっぱり、景観が良いところには人が集まるとよくいいしますので、ここは大事な視点かなと思っております。

私も、藻岩山の景観とかも恥ずかしながらわかっていなかった部分もございまして、こんな素晴らしいところがあるというのを皆さんに知ってもらいたいというのも、やはり大事かなと思っております。市民・観光客というお話もありましたけど、インバウンドという視点もあるのかなと思っております。そういうところから逆輸入ではないですけど、PRと言いますか発信、展開していくとさらにここの認知度が上がっていくのではないかと思った次第でございます。以上でございます。

○愛甲座長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

では、中島公園についてはすみません、時間の関係であまり十分に議論ができなかったのかもしれませんが、また次回、その辺の議論をさせていただければと思えます。

最後、何か他に全体通してありますか。

笠さんどうぞ。

○笠委員 これは今年はまだ無理だと思うんですけど、来年の3回あるうちのどこかの1回で、大通と中島を分けて、現地をみんなで歩きながら、全部は歩けないと思うんですけど、ある程度歩いて、実際に確認をしてそれから議論をする。

中島は中島で、ポイントはやっぱり目線をそろえるというのはすごく大事だと思うので、そのうえでどっかの1回を議論するとか、そういう機会を是非とも設けていただけたらなと思っていました。

○愛甲座長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

ちょっと検討していただいて、その現地を皆さんで見えて、目線を合わせる、現状の認識を揃えるというのは非常に大事ですし、ぜひその時は笠さんにご案内・解説をしていただければと思いますので、事務局の方で検討してください。

ひょっとしたら春ぐらいになるのかな。冬でもいいですかね。

検討していただければと思います。

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

それでは事務局にお返ししたいと思います。

10. 閉会

○事務局（小松みどりの推進課長） 本日は、長時間にわたり、ご議論いただき誠にありがとうございました。

今日様々なご意見いただきました。ご意見それから論点、こうしたものにつきましては事務局で整理、取りまとめをいたしまして、次回の検討会以降で、お示ししていきたいと思っております。本日の配布いたしました資料、それから議事録につきましては、後日HPで公開させていただきます。

それから、第2回大通公園・中島公園あり方検討会につきましては、現状で12月18日(月)を予定しております。

場所、時間等詳細が決まりましたら、また改めて正式にご案内を差し上げたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第1回大通公園・中島公園あり方検討会を終了いたします。

本日はありがとうございました。